

## 絶滅 (EX)

### トキ

ペリカン目 トキ科

*Nipponia nippon* (Temminck)

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 全長 77cm、顔は裸出して赤く、嘴は長くて先端が曲がる。全身は白く、特に翼や尾は橙赤色（トキ色）で、繁殖期は頸部の分泌物で頭・胸・背が暗灰色に染まる。
- ❖ 分布の概要 東アジアに分布するが 20 世紀に激減して各地で絶滅し、中国西部の限られた地域のみで生息する。日本では佐渡島の最後の野生個体 5 羽が 1981 年に人工飼育に移されて野生絶滅し、2003 年に最後の飼育個体が死亡して日本産は絶滅した。2008 年から中国由来の飼育個体を佐渡島で放鳥し、2012 年から野外で繁殖が成功して、2022 年現在で約 500 羽が野生で生息する。
- ❖ 生息状況 水田・河川・湖沼など水辺に生息し、近隣の林地で繁殖する。岩手県では、かつては平地や山地の水田や水辺に生息していたが、明治初期までの乱獲で亡びた。放鳥個体の飛来は岩手県では無いが、近隣の秋田県・山形県・宮城県では確認されている。
- ❖ 脅威 開発や管理放棄による水辺の消失や劣化、農薬の使用による餌生物の減少と汚染。
- ❖ 特記事項 国の特別天然記念物・国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 1. 遠藤公男（1994）、2. 環境省関東地方環境事務所（2023）

（高橋 雅雄）

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

### シマクイナ

ツル目 クイナ科

*Coturnicops exquisitus* (Swinhoe)

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 体長 14cm、全身が淡褐色で細かい白斑が散らばり、上面には黒い縦斑もある。次列風切羽だけ白く、翼を広げた際に目立つ。繁殖期に雄はクルクルガーとカエルのように鳴き、雌雄ともキュルルルと鋭く鳴く。
- ❖ 分布の概要 中国北東部・極東ロシア・日本で繁殖し、中国南東部と日本で越冬する。日本では北海道と青森県の限られた湿性草原で繁殖し、関東以南で越冬する。代表的な繁殖地は釧路湿原（北海道）・勇払原野（北海道）・仏沼（青森）など。
- ❖ 生息状況 河川敷・湖岸・耕作放棄地・湿原などのヨシ原や湿性草原に生息し、下草が豊富な植生環境を好む。岩手県では、主に三陸沿岸の湿性草原を春秋の渡り時期に通過していると推察される。かつては釜石市鶴住居で秋に少数の確認例があったが、東日本大震災により環境が失われた。
- ❖ 脅威 開発や管理放棄による湿性草原の減少と劣化。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 7. 環境省（2014）、13. 高橋雅雄ほか（2018）、14. Senzaki *et al.*（2020）

（高橋 雅雄）

## ウミスズメ

チドリ目 ウミスズメ科

*Synthliboramphus antiquus* (Gmelin)

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 全長 24～27cm。冬羽は、頭部は黒く背は青灰色で下面は白い。夏羽では喉が黒く、目の後方に白線があり足に蹼がある。
- ❖ 分布の概要 北太平洋に広く分布する。千島やサハリンなどで繁殖し、冬期は南下し越冬する。北海道の天売島やハボマイモシリ島の繁殖記録あり。県内には主に外洋に渡来する。山本弘は1943年に熟卵のある本種を山田沖で採集している。1971年6月に三貫島で繁殖（抱卵）の確認や1972年7月に日出島周辺海域で幼鳥の観察記録がある。
- ❖ 生息状況 県内では普通種であったが、最近は沿岸や湾内では稀となった。1990年代まで宮古沖や山田周辺海域では夏期に良く観察されたが、現在は稀である。2000年7月に閉伊崎沖で親子を見た漁師の話あり。2000年代にも日出島沖では、夏期にしばしば1～2ペアが観察されている。
- ❖ 脅威 刺し網漁での混獲、餌となる小魚の減少、海洋汚染。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）、15. 日本野鳥の会編（1973）、16. 千嶋淳（2013）

(関川 實)

## アホウドリ

ミズナギドリ目 アホウドリ科

*Phoebastria albatrus* (Pallas)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 84～94cm 大型の外洋性海鳥。成鳥は、頭部は黄色、細長い翼の上面は黒褐色で尾の先も黒く、嘴はピンク色。
- ❖ 分布の概要 尖閣諸島と鳥島で繁殖する。最近、鳥島個体群は別種と判定されたが学名は未定。一時は絶滅と言われた鳥島では、保護増殖活動により2021年に6500羽まで順調に回復した。現在小笠原諸島へ繁殖地の移転計画が進む。繁殖は冬季で、繁殖を終えると沿岸を北上して三陸沖を経由しアリューシャン列島付近まで行くことが判明している。
- ❖ 生息状況 本県沿岸には北上途上の5～6月に三陸沖でコアホウドリやクロアシアホウドリの群れの中に少数見られる。2021～2023年宮古市沖では鳥島産（リング付）と小型の尖閣産タイプの両方が確認された。
- ❖ 脅威 流し網漁や延縄漁での混獲、プラスチックの海洋汚染。
- ❖ 特記事項 国の特別天然記念物・国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 3. 日本野鳥の会宮古支部（2020-2023）

(関川 實)

## クロシジロウミツバメ

ミズナギドリ目 ウミツバメ科

*Oceanodroma castro* (Harcourt)

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 全長 19cm。腰が四角に鮮やかに白い他は黒褐色で、黒い嘴に管鼻があり、足は黒く蹼がある。
- ❖ 分布の概要 太平洋ではハワイ諸島やガラパゴス諸島、大西洋ではカーボベルデ諸島・マデイラ・セントヘレナ・アセンション島で繁殖する。熱帯の島では年2回繁殖期がある。日本では岩手県の島のみで繁殖する外洋性海鳥。日出島では5月に渡来・繁殖し、ヒナは10月に巣立ち南へ渡る。
- ❖ 生息状況 県内では、日出島・三貫島・船越大島他で繁殖する。日出島では1971年には8000羽弱が繁殖していたが、1980年代後半からオオミズナギドリの増加に伴って激減した。表土の流失防護柵や巣箱設置など繁殖地の回復事業を実施しているが、渡来が4月のコシジロウミツバメに巣箱が占拠され思うように進んでいない。船越大島では林床環境が1970年代の日出島の植生に近く個体数が最も多い。宮古市内では毎年10月に夜間照明の下で幼鳥が保護されていたが、2011年に5羽が保護された以降は激減。2022年に大槌町で、2023年に津軽石川河口で食痕が確認された。2023年に宮古沖で夕方に少群が観察された。
- ❖ 脅威 繁殖地のネズミ類・ヘビ類・天敵のオオセグロカモメ・競合するオオミズナギドリの増加、ナラ枯れによる森林の衰退、夜間照明設備への誘引。
- ❖ 特記事項 日出島の繁殖数が激減したのでランクを上げた。国内希少野生動植物種。日出島は国の天然記念物。
- ❖ 文献 4. 日本野鳥の会編（1973）、5. 環境省（2023）

(関川 實)

## コウノトリ

コウノトリ目 コウノトリ科

*Ciconia boyciana* Swinhoe

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 全長 110cm、頭・首・背・腹から尾まで白く、翼の風切羽・雨覆羽・小翼羽は黒い。風切羽は前面の一部が粉を吹いたように白い。嘴は黒く、目の周りは肌が露出して赤く、脚も赤い。
- ❖ 分布の概要 中国東北部からアムール・ウスリー地方で繁殖し、中国の長江下流から沿岸部で越冬する。これら大陸の繁殖個体は少数が主に秋～春に日本各地に飛来する。日本の繁殖個体群は1971年に絶滅した。2005年から大陸由来の飼育個体を兵庫県豊岡市で放鳥し、2006年から野外で繁殖が成功した。2023年現在では、放鳥由来の約300羽が野生で生息し、関東以西で少数が繁殖する。
- ❖ 生息状況 水田・河川・湖沼など水辺に生息し、近隣の林地や高い構造物の上で繁殖する。岩手県では、かつては平地の水田や水辺に生息し、江戸期には北上川流域の大木に営巣していた。近年では大陸由来の1個体が2004年12月に大船渡市盛川で観察され、放鳥由来の個体が稀に飛来する（2023年8月紫波町1個体など）。
- ❖ 脅威 開発や管理放棄による水辺の消失や劣化、農薬の使用による餌生物の減少と汚染、人工物との衝突事故。
- ❖ 特記事項 国の特別天然記念物・国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 1. 遠藤公男（1994）、6. 兵庫県（2023）、7. 環境省（2014）、8. 日本野鳥の会もりおか（2023）

(高橋 雅雄)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑥

## チシマウガラス

カツオドリ目 ウ科

*Urile urile* (Gmelin)

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 全長 79～89cm。全身が黒色で紫色の光沢を帯びる。夏羽は頭部に冠羽が2か所あり額から嘴の周りが赤くなる。冬羽では冠羽はなくなる。
- ❖ 分布の概要 北太平洋北部の千島列島・カムチャッカ・アリューシャン列島で繁殖する。冬季は南下するが本州では稀。かつては根室半島落石岬・ユルリ島・モユルリ島で繁殖した。最近ユルリ島・モユルリ島の岩棚で数羽が確認されているが、繁殖状況は不明。県内に古い記録あり。
- ❖ 生息状況 岩手にはかつて冬鳥として三陸海岸の記録があるが、最近の観察記録はない。潜水して主に魚類を捕食する。
- ❖ 脅威 刺し網での混獲、海洋汚染、天敵のオオセグロカモメ。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)、10. 環境省自然環境局 生物多様性センター (2023)

(関川 實)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

## サンカノゴイ

ペリカン目 サギ科

*Botaurus stellaris* (Linnaeus)

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 体長 70cm、全身が淡褐色で大小の黒褐色斑が散在し、脚は緑黄色。繁殖期に雄は重低音でボーボーと鳴く。
- ❖ 分布の概要 主にユーラシアの亜寒帯と温帯に分布する。日本では北海道・青森・秋田・茨城・千葉・滋賀などで局所的に繁殖する。北海道では夏鳥、本州以南では留鳥または冬鳥。
- ❖ 生息状況 湿原・河川敷・湖岸などの水が溜まった広いヨシ原や湿性草原に生息し、人前に姿をあまり現さない。岩手県では、内陸部や三陸沿岸部のヨシ原で少数の記録があったが、近年は確認されていない。春秋の渡り時期に少数が通過していると推察され、越冬の可能性もある。
- ❖ 脅威 開発や管理放棄によるヨシ原や湿性草原の減少と劣化。
- ❖ 文献 7. 環境省 (2014)、11. 藤井忠志・四ツ家孝司 (2008)

(高橋 雅雄)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

## オオヨシゴイ

ペリカン目 サギ科

*Ixobrychus eurhythmus* (Swinhoe)

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 体長 39cm、近縁のヨシゴイよりわずかに大きい。雄は体上面が赤みの強い褐色、下面は淡い黄白色で、雌は上面に淡い黄白色の縦斑が、下面に褐色の縦斑が入る。瞳孔の後方の虹彩に黒斑がある。
- ❖ 分布の概要 東アジアで繁殖し東南アジアで越冬する。日本では北日本で局地的に繁殖するが、繁殖地は数ヶ所程度で極めて少ない。
- ❖ 生息状況 ヨシ原や湿性草原に生息する。岩手県では 1960 年代まで内陸部や沿岸部のヨシ原で繁殖期に見られたが、近年は全く観察されない。2010 年 10 月と 2022 年 9 月に県央の内陸部で衰弱・死亡個体が拾得され、春秋の渡り時期に少数が通過していると推察される。
- ❖ 脅威 開発や管理放棄によるヨシ原や湿性草原の減少と劣化、越冬地での乱獲の可能性。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 7. 環境省 (2014)、12. 大倉史雄 (2017)

(高橋 雅雄)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

## ミゾゴイ

ペリカン目 サギ科

*Gorsachius goisagi* (Temminck)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 49cm、翼開長 87cm。上面は赤褐色で下面は淡黄褐色に黒褐色の縦斑がある。眼の周囲と眼先は淡青色で嘴は黒くサギ類としては短い。幼鳥は成鳥より黒っぽく虫食い状の斑点が散在する。4 月中旬から 5 月の夕方にボーボーと鳴く。
- ❖ 分布の概要 日本列島及び韓国済州島で繁殖。夏鳥として本州以南に渡来し低山で繁殖する。冬は台湾やフィリピンなどに渡り越冬するが、一部は西南日本にとどまるものもいる。
- ❖ 生息状況 県内ではこの 10 年ほどで衣川村・西和賀町・宮古市・二戸市などで鳴き声・目撃・繁殖の記録があったが、従来同様非常に少ない。なお、2023 年 5 月 4 日に県中央部の平地林で 1 個体がセンサーカメラで撮影された。
- ❖ 脅威 沼沢地や小川を含む低地林の開発や堰堤の建設工事。

(由井 正敏)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①

## クマタカ

タカ目 タカ科

*Nisaetus nipalensis* Hodgson

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 大型の猛禽類で、雌雄による羽衣の違いはない。成鳥は黒褐色の顔に橙色の眼を持ち、後頭には冠羽がある。幼鳥は淡色の顔をしており、虹彩は青灰色で年齢とともに次第に橙色へと変化していく。風切羽根や尾羽にある太い縞模様が目立つ。
- ❖ 分布の概要 国内では沖縄を除く地域に年間を通じて生息している。
- ❖ 生息状況 岩手県内ではほぼ全域にわたって山地帯に生息している。密度の高い地域では 2~3 キロ間隔で繁殖つがいが見られることもある。
- ❖ 脅威 営巣地周辺における森林伐採や土木工事等による攪乱。人工林など林相の単純化による餌生物の減少。鉛汚染された狩猟獣の摂食による中毒も予期される。風力発電施設への衝突や送電線での感電などの事例も知られる。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。

(前田 琢)

## イヌワシ

タカ目 タカ科

*Aquila chrysaetos* (Linnaeus)

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 大型の猛禽類で、長めの両翼を浅いV字形にして帆翔する。全体的に黒っぽく見えるが、光が当たると成鳥の後頭部にある金茶色の羽根が目立つ。幼鳥には風切羽根と尾羽に明瞭な白色部があるが、年齢とともに目立たなくなっていく。
- ❖ 分布の概要 国内では沖縄を除いて生息が知られるが、北海道では少数しか確認されず、近年の繁殖状況はわかっていない。九州の個体もわずかで、四国では近年の生息確認が途絶えている。中国、近畿、北陸では30～40年前と比べて生息数が大きく減っている。甲信越や東北の生息数は比較的多いが減少傾向にある。
- ❖ 生息状況 岩手県内の北上高地では、標高の低い最北部、最南部を除き30つがい以上の繁殖地が知られている。奥羽山地には1つがいの繁殖地があるほか、秋田県側で繁殖する数つがいの行動圏に含まれる。本種の行動範囲は広く、放浪個体もいるため、繁殖地から離れた地域でもしばしば飛来が確認される。繁殖成功率は低く、生息数は2010年頃より減少傾向にある。
- ❖ 脅威 営巣地周辺における森林伐採や土木工事等による攪乱。ノウサギ、ヤマドリなど主要な餌動物の減少。採餌に適した開放的環境の減少。撮影を目的とした人が集まることによる攪乱。風力・太陽光発電施設による衝突死や採餌場所の消失。大雪や強風等の異常気象の激化。ツキノワグマ等による雛の捕食。
- ❖ 特記事項 国の天然記念物・国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 19. 岩手県環境保健研究センター (2012)

(前田 琢)

## オオワシ

タカ目 タカ科

*Haliaeetus pelagicus* (Pallas)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 雄 88cm、雌 102cm。成鳥は全身黒褐色で肩と尾は白い。尾は長く楔型。嘴と足は黄色。
- ❖ 分布の概要 サハリン北部・オホーツク海沿岸・カムチャッカ半島で繁殖し、冬鳥として北海道や本州に少数が渡来する。県内では、沿岸のサケの遡上する河川・海岸の岬・三貫島に渡来する。内陸の最近の飛来はない。渡来は宮古湾の10月20日が最も早く、2023年は12月24日と最も遅かった。
- ❖ 生息状況 2023年2月の岩手の「海ワシ類一斉調査」では、初めて記録されず減少は顕著である。河川のサケが減少し、宮古市や大船渡市の魚市場で、水揚げのタラ類や沖ハモ（イラコアナゴ）の捕獲の観察あり。五葉山系のニホンジカの死骸に付く本種は、最近稀。2022年は各地で11羽観察されたが、2023年は12月に3羽と最低を更新。
- ❖ 脅威 河川のサケ他餌資源の減少、風力発電施設への衝突。
- ❖ 特記事項 国の天然記念物・国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 18. 日本野鳥の会宮古支部 (2014-2023)

(関川 實)

## オジロワシ

タカ目 タカ科

*Haliaeetus albicilla* (Linnaeus)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 雄 76～90cm、雌 86～98cm。成鳥は、頭部は炎褐色で全体は茶褐色、翼は広く四角で、尾は白く楔形。嘴と足は黄色。
- ❖ 分布の概要 ユーラシア大陸の海岸や河川、湖沼など水辺に生息し、冬季は南へ渡り越冬する。現在、北海道では繁殖地が約 300 か所と激増中で、青森県でも繁殖が確認されたが、越冬数は横ばい。県内の越冬数は減少している。山本弘によると「重茂半島に古来、ミズナラの老樹にオジロワシが繁殖したが、1951 年に伐採された。船越半島にも 1 巣あり、田野畑に繁殖の形跡あり」という。
- ❖ 生息状況 県内には 11 月初めに渡来し 3 月まで沿岸や内陸の北上川、ダム湖で越冬する。1985 年から継続している県内の海ワシ一斉調査では、震災後、川サケの激減から減少している。宮古湾では、オオバンの狩りや春先にミサゴからボラの横取り、魚市場のタラの捕獲が観察されている。2023 年冬はサケの大不漁で、閉伊川に 2 羽、宮古湾に 1 羽、陸前高田で 1 羽と飛来数は激減した。
- ❖ 脅威 河川のサケの減少、河川改修など生息環境の悪化、風力発電施設への衝突。
- ❖ 特記事項 沿岸で 2013～2016 年に営巣繁殖活動の記録。国の天然記念物・国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）、17. 山本弘（1955）

(関川 實)

## クマゲラ

キツツキ目 キツツキ科

*Dryocopus martius* (Linnaeus)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 雌雄ともに体長 45cm。全身が黒、眼の虹彩が黄色で雄は頭部全体が、雌は後頭部のみが深紅。
- ❖ 分布の概要 国内では北海道と北東北三県に分布。岩手県内では 1981 年安代町西森山で由井が、1995 年岩泉町権現山国有林で田村氏が、1999 年安代町安比ペンション村で石坂氏が撮影した 3 例があり、その後は殆ど記録が無かった。しかし 2021 年 6 月に県南部で親子群が確認された。
- ❖ 生息状況 上記の 1 例を除き、本州北部の生息情報は最近殆ど報告が無い。北海道ではやや増加中とのことなので、今後分散して来る可能性はある。
- ❖ 脅威 本州北部の生息地はブナ自然林に限定されているので、風力開発による伐採圧などの人為的攪乱を避けるべきである。また、移動路である緑の回廊の保護を図る必要がある。
- ❖ 特記事項 国の天然記念物。
- ❖ 文献 20. 藤井忠志（1999）、21. 北東北のクマゲラ出版委員会編（2004）

(由井 正敏)

## ハヤブサ

ハヤブサ目 ハヤブサ科

*Falco peregrinus* Tunstall

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長雄 38～45cm 雌 46～51cm。成鳥の頭部は黒く、目の下にひげ状の斑紋があり、上面は青灰色、腹部は白く黒の横斑がある。幼鳥は全身褐色で腹部に縦斑がある。
- ❖ 分布の概要 全国の主に海岸、水鳥のいる河口、池沼など水辺で見られる。冬期に北方の亜種も見られる。東北でも高層ビルやダム堤で繁殖の記録あり。県内では、主に海岸の崖に周年生息し繁殖する。内陸の崖でも少数が繁殖している。内陸のドバトのいる市街地や鳩レースの放鳩地でも見られる。
- ❖ 生息状況 沿岸の久慈市から陸前高田市にかけて繁殖地がある。内陸の河川の崖で繁殖している。餌はレースバトが最も多いが、最近は増えたアオバトの狩りが頻繁にみられる。沿岸部を渡るアカエリヒレアシシギなどの減少から、最近は繁殖率が低い傾向が続いている。渡り鳥の減少から、飼いバトを狙い鳩小屋へ衝突、電線の接触事故も多い。
- ❖ 脅威 レースバトからの薬物の蓄積、渡り鳥の減少、鳥インフルエンザ。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)

(関川 實)

## チゴモズ

スズメ目 モズ科

*Lanius tigrinus* Drapiez

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 体長 18cm、頭部は青灰色、背から尾までの上面は褐色、喉から腹までの下面は白く、黒い過眼線がある。
- ❖ 分布の概要 東アジアで繁殖し、中国南部や東南アジアで越冬する。日本では主に東北～中部・北陸で繁殖する夏鳥だが、近年は分布域と繁殖個体数が急激に減少し、日本海側の一部地域に少数が繁殖するのみとなった。
- ❖ 生息状況 低地の緑地や山地の二次林に生息する。岩手県ではかつては盛岡市下厨川の東北農試構内など盛岡市近郊、小岩井の落葉果樹試験場、宮古湾岸部などで見られた。近年は極めて稀で、夏期の記録4例 (1997年五葉山上部、1998年八幡平三石山荘付近、2000年小岩井農場、2009年6月花巻市大迫町亀が森) しかない。
- ❖ 脅威 繁殖環境の減少、渡りルートや越冬地の環境悪化。
- ❖ 文献 7. 環境省 (2014)、22. 盛岡市自然環境総合調査団編 (1977)、23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)

(高橋 雅雄)



## アカモズ

スズメ目 モズ科

*Lanius cristatus* Linnaeus

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 体長 20cm、頭から尾までの上面は赤茶色、喉から腹までの下面は淡褐色で、黒い過眼線と白い眉斑がある。
- ❖ 分布の概要 東アジアで繁殖し、中国南部・東南アジア・南アジアで越冬する。日本では亜種アカモズが南西諸島を除くほぼ全国で繁殖していたが、近年は分布域と繁殖個体数が急激に減少し、北海道や長野県などの一部地域に少数が繁殖するのみとなった。
- ❖ 生息状況 草地・河川敷・農耕地・牧草地など開けた場所の中の疎林に生息する。岩手県では、かつては盛岡市近郊、小岩井農場、北上高地の牧野などで普通に見られたが、近年は全く確認されない。最近の記録は 2009 年 8 月の花巻市石鳥谷町北寺林の 1 例のみで、春秋の渡り時期に少数が通過していると推察される。
- ❖ 脅威 繁殖環境の減少、渡りルートや越冬地の環境悪化。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 7. 環境省 (2014)、22. 盛岡市自然環境総合調査団編 (1977)、23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)、24. 花巻野鳥観察会 (2010)

(高橋 雅雄)

## オオセッカ

スズメ目 センニュウ科

*Locustella pryeri* (Seeböhm)

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 体長 13cm、体の上面は褐色で、頭部から背中にかけて黒い縦斑があり、下面は淡褐色で、淡い眉斑がある。繁殖期の雄はビジョビジョビジョと囀りながら数 m 飛び上がる囀り飛翔をする。雌雄ともにギチチと鳴く。
- ❖ 分布の概要 亜種オナガオオセッカは中国北東部・ウスリーで繁殖し、中国南東部で越冬する。基亜種オオセッカは東北地方と関東地方の 5 ヶ所の湿性草原だけで繁殖し、本州・四国・九州で越冬する。代表的な繁殖地は仏沼 (青森)・岩木川河口 (青森)・利根川下流域河川敷 (茨城・千葉) など。
- ❖ 生息状況 河川敷・湖岸・耕作放棄地などのヨシ原や湿性草原に生息し、下草が豊富な植生環境を好む。岩手県では、三陸沿岸の湿性草原で青森県の繁殖個体が春秋の渡り時期に通過する。かつては少数が釜石市鶴住居で越冬していたが、東日本大震災により環境が失われた。
- ❖ 脅威 開発や管理放棄による湿性草原の減少と劣化。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 7. 環境省 (2014)、25. 千葉一彦・作山宗樹 (2011)、26. NPO 法人 おおせっからんど (2012)、27. 永田尚志 (1997)、28. 上田恵介 (2003)、29. 高橋雅雄ほか (2022)、30. 高橋雅雄ほか (2023)、31. 平野敏明 (2015)

(高橋 雅雄)

## コクガン

カモ目 カモ科

*Branta bernicla* (Linnaeus)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 55～66cm。首の短い小型のガン。頭から首、胸は黒褐色で、成鳥は喉に白斑があり下腹、下尾筒は白い。
- ❖ 分布の概要 北極圏で繁殖、冬鳥として中国、朝鮮半島、日本に渡来する。県内では沿岸各地の湾内や河口、磯、養殖筏周辺、沖合の湾口の定置網の周辺でも見られる。
- ❖ 生息状況 宮古湾では、1970年代は春と秋に見られる鳥であった。近年は、沿岸部の種市、宮古湾、山田湾、大船渡市などに群れが定期渡来する。津軽石川河口には最大約 150 羽が飛来していたが東日本大震災後に激減したものの、最近は 70 羽前後まで回復している。2023 年に浪板海岸で約 100 羽の群、2024 年 2 月津軽石川河口で 100 羽が観察され回復は顕著。河口の浅瀬、養殖筏、船着場等でアマモやアオサなどの海藻を食べる。
- ❖ 脅威 海洋汚染、アマモやアオサなど海藻の減少。
- ❖ 特記事項 国の天然記念物。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）、33. 日本野鳥の会宮古支部（2015-2023）

(関川 實)

## トモエガモ

カモ目 カモ科

*Sibirionetta formosa* Georgi

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 40cm、雄の顔には鮮やかな巴模様がある。雌は色も大きさもコガモに似るが、嘴の付け根に白斑がある。
- ❖ 分布の概要 東アジアのみに分布し、ロシアで繁殖し、韓国・中国・日本で越冬する。島根県・石川県・新潟県など日本海側に多く渡来するが、太平洋側の千葉県印旛沼も一大越冬地となっている。
- ❖ 生息状況 日本での越冬個体数は 20 世紀後半頃より減少していたが、近年渡来数が増加傾向にある。岩手県内でも近年では、陸前高田市小友町（2017 年・雄 1 羽）や盛岡市高松の池（2021 年・雄 1 羽雌 1 羽）、奥州市胆沢区小山（2023 年雄 4 羽雌 3 羽）、陸前高田市気仙町（2024 年雄 3 羽雌 4 羽）などの記録がある。
- ❖ 脅威 河川や湿地の開発。越冬地の人為的な攪乱。
- ❖ 文献 34. 植田睦之ほか（2023）

(浅川 崇典)

## ウズラ

キジ目 キジ科

*Coturnix japonica* Temminck & Schlegel

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 体長 20cm、全身褐色で主に上面に淡黄色の縦斑がある。雄は顔が赤っぽく、白い眉斑がある。雌は顔も褐色で、淡黄色の眉斑がある。繁殖期のさえずりはジュピッチャまたはゴッキッチョと聞こえる。
- ❖ 分布の概要 中国東北部・極東ロシア南部・日本で繁殖し、朝鮮半島・中国南部・日本で越冬する。日本では北海道や東北地方北部で主に繁殖し、関東地方以南で越冬する。
- ❖ 生息状況 河川敷・放牧地・採草地・耕作放棄地などの乾燥した草原に生息する。1970年代までは、岩手県内の中標高山地の放牧地や採草地で繁殖期に鳴き声がよく聞こえたが、今は全く確認されない。最近は渡りの時期に内陸部や三陸沿岸で少数が確認される。
- ❖ 脅威 開発や管理放棄による草原の減少と劣化。特に放牧地や採草地の粗放な伝統的管理から集約的な近代的管理へ変化。
- ❖ 特記事項 2013年6月に狩猟鳥の指定から外された。
- ❖ 文献 7. 環境省 (2014)、32. 高橋雅雄ほか (2017)

(高橋 雅雄)

## ヒクイナ

ツル目 クイナ科

*Zapornia fusca* (Linnaeus)

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 全長 23cm、頭頂から尾までの上面は暗緑褐色で、顔から腹までの下面は赤褐色、下腹と下尾筒は白黒の横縞模様、嘴は黒く、目と脚は赤い。繁殖期に雄はキョツ、キョツ・・・と続けて鳴き、始めはゆっくりでしだいに早くなる。雌雄ともキュルルルと鳴く。
- ❖ 分布の概要 南アジア・東南アジア・東アジアに分布する。日本では北日本で夏鳥、東日本と西日本では留鳥で、特に関東以南で比較的多い。南西諸島中部以南には別亜種リュウキュウヒクイナが生息する。
- ❖ 生息状況 平地から山地の河川・湖沼・水田等の湿地に生息する。岩手県では、近年は観察例がほぼ無い。
- ❖ 脅威 開発や改修による湿地の劣化や消失、農業の形態変化による乾田の増加。近縁他種（クイナ）との競合の可能性。
- ❖ 文献 7. 環境省 (2014)、23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)

(高橋 雅雄)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

## ヒメクイナ

ツル目 クイナ科

*Zapornia pusilla* (Pallas)

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 20cm、体の上面は茶色で、背に黒と青灰色の縦班がある。下面は顔から腹まで青灰色で、下腹から下尾筒まで白黒の横縞がある。目は赤く、嘴は黒灰色で一部に黄色みがあり、脚は緑黄色で比較的長い。雄は繁殖期にジリリリリと虫のような声で鳴く。
- ❖ 分布の概要 ユーラシアの温帯域で繁殖し、アフリカ北部・インドから東南アジアに渡る。アフリカ南部・マダカスカル・オーストラリア・ニュージーランドでは留鳥として分布する。日本では北日本で夏鳥、他の地域では旅鳥または冬鳥。
- ❖ 生息状況 湿原・河川敷・湖岸・耕作放棄地などの水が多い湿性草原に生息し、人前に姿をあまり現さない。岩手県内では記録が極めて少なく近年はほとんど確認されていないが、春秋の渡り時期に少数が通過していると推察される。
- ❖ 脅威 湿性草原の減少と劣化。
- ❖ 文献 38. 日本鳥学会 (2012)

(高橋 雅雄)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

## ケリ

チドリ目 チドリ科

*Vanellus cinereus* (Blyth)

環境省 情報不足

- ❖ 形態 全長 36cm、頭部と胸部は青灰色、背は褐色、翼と尾は先が黒く中ほどは白い。胸に黒帯模様があり腹部は白い。嘴は黄色で先端は黒く、脚は黄色で長く、目は赤で黄色のアイリングがある。翼爪があり雌雄で大きさが異なる。
- ❖ 分布の概要 中国東北部・日本・台湾で繁殖し、一部は暖地で越冬する。日本では本州・四国・九州の水田・畑地・河原・湿地などで繁殖し、東海・北陸地方で特に多い。積雪地域のものは南下して越冬する。岩手県は繁殖分布の北東端に位置する。
- ❖ 生息状況 水田・畑地・草丈がかなり低い草地に生息し、特に農作業が始める前の早春の水田で営巣する。岩手県では、40 年ほど前は県央の内陸部の平地でしばしば見かけたが、最近は盛岡市～北上市の限られた農耕地で少数が繁殖するのみ。
- ❖ 脅威 営巣環境の悪化、農作業による巣の破壊、繁殖つがいの減少による集団防衛力の弱化。
- ❖ 文献 38. 日本鳥学会 (2012)、39. Takahashi, Ohkawara (2007)

(高橋 雅雄)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

## シロチドリ

チドリ目 チドリ科

*Charadrius alexandrinus* Linnaeus

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 15～17.5cm、雄の夏羽は額から眉班が白く、前頭と過眼線が黒い。頭頂部は橙褐色をしている。雌の夏羽と雌雄の冬羽は、やや白色で頭頂部が灰褐色になる。
- ❖ 分布の概要 全国に広く分布するが、北方の個体は冬季になると南方へ移動することが多い。隣県の宮城県や青森県、秋田県では繁殖が確認されているが、岩手県では確認されていない。最近では主に越冬期に陸前高田市高田松原で単独または3羽程度の小群が確認されることがある。以前に越冬が確認されていた宮古市津軽石川河口では、近年確認されていない。
- ❖ 生息状況 砂浜や砂州の他、造成中の埋め立て地や砂礫地でも繁殖する。砂浜や干潟の上を忙しく動き、ゴカイや甲殻類などを採餌する。
- ❖ 脅威 生息地への人や車両の進入による攪乱。
- ❖ 文献 24. 花巻野鳥観察会 (2010)

(浅川 崇典)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

## オオジシギ

チドリ目 シギ科

*Gallinago hardwickii* (Gray)

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 体長 30cm、日本産タシギ属の中では最も大きい。全身は褐色で、頭や背を中心に茶褐色や黒褐色の複雑な模様が入る。腹は白く、嘴は褐色で先端が濃い。脚は黄色。
- ❖ 分布の概要 日本・サハリン・ロシア沿海地方のみで繁殖し、オーストラリア東部で越冬する。日本では、北海道や東北地方の低地、本州中部～九州の山地草原で繁殖する。
- ❖ 生息状況 草丈 30cm 位の湿性草原で繁殖する。渡りの時期には河川敷や水田にも出現する。岩手県では八幡平・岩手山麓・北上山地の山地草原・湿原・牧野で繁殖するが少ない。近年、分布域や生息数が全国的に減少し、特に本州以南で顕著である。
- ❖ 脅威 湿性草原の劣化や消失、近代的な集約牧野の増加。
- ❖ 文献 7. 環境省 (2014)、23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)

(高橋 雅雄)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

## コアジサシ

チドリ目 カモメ科

*Sterna albifrons* Pallas

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 28cm、背は低く、体は細い。体と尾は白色をしており、背面と翼上面は淡い灰色。夏羽では嘴は黄色で脚は橙色。キリッキリッと鳴く。
- ❖ 分布の概要 夏鳥として本州以南に渡来して繁殖する。宮城県蒲生海岸では 1990 年を最後に繁殖が確認されていなかったが、近年再び確認されるようになった。
- ❖ 生息状況 海岸や河川などの砂浜、砂利地、埋立地で集団繁殖する。水中にダイビングして小魚などを捕食する。岩手県内では、過去に陸前高田市高田松原や盛岡市高松の池、雫石川での観察記録があるが、近年は観察例がない。
- ❖ 脅威 造成工事等による営巣地の減少。カラス類やチョウゲンボウ等による捕食の増加。営巣地や渡来地への人や車両の進入による攪乱。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)、23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)、40. 陸前高田市史編集委員会編 (1994)、41. 河北新報社 (2020)

(浅川 崇典)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①

## ウミガラス

チドリ目 ウミスズメ科

*Uria aalge* (Pontoppidan)

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 全長 38～43cm。首が長く、上面がこげ茶色で下面は白い。鳴き声からオロロンチョウとも呼ばれる。外洋性海鳥。
- ❖ 分布の概要 北太平洋北部に分布、繁殖する。冬季は本州まで南下し越冬。北海道の天売島では 1963 年に約 8000 羽繁殖したが、刺し網等で激減した。復活事業により天売島では、2022 年に飛来数が 104 羽まで回復した。県内では沿岸で普通に見られていたが、最近は少ない。
- ❖ 生息状況 沿岸の小本沖、田老真崎、三貫島周辺、吉浜湾で見られた。1998 年 4 月に三陸沖で、本種とハシブトウミガラスが 1 万羽以上観察されている。最近も三陸沖のフェリー航路で観察されている。
- ❖ 脅威 刺し網漁や延縄漁での混獲、海洋汚染、天敵のオオセグロカモメ。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)、16. 千嶋淳 (2013)、42. 黒田長久 (1954)

(関川 實)

## ケイマフリ

チドリ目 ウミスズメ科

*Cepphus carbo* Pallas

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 37cm。夏羽は全身黒褐色をしており、目の周りが白い。冬羽は目の周りの白い部分が減り、喉から腹部にかけての下面が白色になる。脚は赤色で、飛翔時に良く目立つ。
- ❖ 分布の概要 日本では北海道の天売島や知床半島（斜里町側）、青森県の一部などで繁殖している。冬は北日本の海上で越冬する。
- ❖ 生息状況 岩手県内では、過去に釜石市三貫島や姉ヶ崎、陸前高田市椿島で繁殖が確認されていたが、現在はいずれの場所でも確認されていない。最近では宮古市（宮古湾白浜沖）や陸前高田市（広田湾）で記録されているが、稀である。潜水して、小魚や甲殻類などを捕食する。
- ❖ 脅威 刺し網漁や延縄漁での混獲。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）、17. 山本弘（1955）、23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、43. 東海新報社（2020）

（浅川 崇典）

## コアホウドリ

ミズナギドリ目 アホウドリ科

*Phoebastria immutabilis* (Rothschild)

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 全長 79～81cm 翼開長 195～203cm。細長い翼の外洋性大型海鳥。背と翼の上面は黒褐色で、頭部と下面は白く、嘴と脚は淡紅色で蹼がある。
- ❖ 分布の概要 太平洋の暖かい島で繁殖。国内では伊豆諸島、小笠原諸島で冬季に繁殖し、繁殖期以外は外洋に生息する。県内では三陸沖で見られる。洋上でイカ類、魚類などを捕食する。
- ❖ 生息状況 本県沖合では、ほぼ年中見られる。特に5月にはクロアシアホウドリやアホウドリと共に見られるが、個体数は多くない。宮古の閉伊崎ではトロール漁船に付く本種が観察されている。2018年に普代浜や宮古市の漁港で台風後に確認されている。
- ❖ 脅威 流し網漁やはえ縄漁での混獲、プラスチック等の海洋汚染。
- ❖ 文献 3. 日本野鳥の会宮古支部（2020-2023）、9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）

（関川 實）

## ヒメクロウミツバメ

ミズナギドリ目 ウミツバメ科

*Hydrobates monorhis* (Swinhoe)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 19cm。全身が黒褐色で、初列風切の羽軸が白く、腰は褐色で、尾の切れ込みはやや深く、嘴と脚も黒く蹼がある。
- ❖ 分布の概要 日本近海の離島の岩の隙間、地中に営巣。国内では、伊豆諸島、京都府の杣島、福岡県的小屋島や県内の三貫島で繁殖する。鳴き声に特徴あり。
- ❖ 生息状況 県内では、三貫島が繁殖地として知られ、船越大島でも確認された。三貫島では、1935年には多数繁殖していたらしいが、その後はオオミズナギドリの増加で減少したと思われる。2011年の震災で西端の小規模コロニーが被災し、その後消滅した。2012年の深夜に約100羽を確認し、すべての個体に抱卵斑があり、個体数は回復の兆しがある。2020年に宮古沖で見られた。2023年に三貫島の西側で、本種と思われる小規模コロニーが確認された。
- ❖ 脅威 競合種のオオミズナギドリの増加、天敵のオオセグロカモメ。
- ❖ 特記事項 三貫島は国の天然記念物。
- ❖ 文献 35. 熊谷三郎（1936）、36. 遠藤公男他（1987）

（関川 實）

## コシジロウミツバメ

ミズナギドリ目 ウミツバメ科

*Hydrobates leucorhous* (Vieillot)

環境省 なし

- ❖ 形 態 全長 20.5cm。ほぼ全身が茶褐色で腰が汚白色。嘴、足は黒く蹼がある。菅鼻があり、尾に深い切れ込みあり。鳴き声に特徴あり。
- ❖ 分布の概要 太平洋と太平洋の北部で繁殖し、冬季は南の海域に渡る。国内では、北海道の大黒島が最大の繁殖地で 100 万羽以上が繁殖する。三陸沖では宮城県の足島や県内の日出島・船越大島・三貫島で繁殖する。4 月に渡来・繁殖し、9 月にヒナは巣立つ。
- ❖ 生息状況 本県では、1968 年に三貫島で初認後、1976 年に日出島でも確認された。その後は繁殖も確認され年々増加傾向。1998 年に船越大島でも繁殖が確認された。日出島ではクロコシジロウミツバメの繁殖を巡り競合種となっている。宮古沖では毎年、少数が観察されている。宮古市内では巣立ちの 9 月に幼鳥が保護される。
- ❖ 脅 威 海洋汚染、天敵のオオセグロカモメ、餌資源汚の減少。
- ❖ 特記事項 繁殖個体数が少ないのでランクを上げた。
- ❖ 文 献 37. 環境省自然環境局 生物多様性センター (2023)

(関川 實)

## ヨシゴイ

ペリカン目 サギ科

*Ixobrychus sinensis* (Gmelin)

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形 態 全長 31～38cm で日本のサギ類で最小。上面は褐色、下面は淡黄色の羽毛で覆われる。虹彩は黄色。
- ❖ 分布の概要 本州中部以南では越冬するものもいるが、本県には夏鳥として生息する。
- ❖ 生息状況 海岸や河川の湿性草原に生息し、普通草むらに潜んでいるが、ヨシの茎に似せて擬態することもある。近年では滝沢市、矢巾町、奥州市等の溜池で観察例がある。
- ❖ 脅 威 ヨシ原等湿地の減少、東南アジア等での狩猟圧などが考えられる。2012 年高松の池の個体が、ネコに捕食されたことが観察された。その後高松の池での繁殖は確認されていない。
- ❖ 特記事項 東日本大震災津波により、沿岸部の生息地がかなり失われた。
- ❖ 文 献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)、36. 遠藤公男他 (1987)

(安藤 泰彦)

## 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 選定要件 ②

## ミサゴ

タカ目 ミサゴ科

*Pandion haliaetus* (Linnaeus)

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 全長 54～64cm。翼は細長く尾は短い。頭部に冠羽があり上面は黒褐色で下面は白く胸に褐色のバンドがある。
- ❖ 分布の概要 世界に広く分布す、国内では全国の主に海岸で繁殖する。県内では沿岸に多いが、1970年代から内陸のブラックバス、ヘラブナの多いダム湖で飛来が確認されていたが、最近では生息数、繁殖も増えた。温暖化で、渡来も早く秋も遅くまで確認され、留鳥化の兆しあり。
- ❖ 生息状況 沿岸では、震災後に巣の移動が各地で見られる。田野畑、三貫島では巣が減った地域もあるが総数ではあまり変化はない。内陸の四十四田、御所湖、田瀬湖などのダム湖周辺や北上川沿いの山地で繁殖している。市街地の高松の池や閉伊川上流域など山地での確認もある。溪流の狩りも観察されている。沿岸南部では、最近では産卵が早くなっている。宮古市近郊で 2023 年に越冬 1 羽が観察された。
- ❖ 脅威 定置網や養魚場の防護網、餌資源のボラやウグイの減少。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）

(関川 實)

## 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 選定要件 ②

## チュウヒ

タカ目 タカ科

*Circus spilonotus* Kaup

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 全長雄 48cm、雌 58cm。両翼をV字形に保った滑翔とゆっくりしたはばたきを交互に行う。
- ❖ 分布の概要 北海道と本州の湿地、広い農耕地、干拓地のヨシ原で繁殖しているが、極めて局地的。冬期は日本全国のヨシ原に生息する。
- ❖ 生息状況 本県では海岸部の広いヨシ原で、移動期少数が観察される。冬期積雪前は、内陸や県南の水田地帯で観察されることもある。高松の池での記録もある。
- ❖ 脅威 ヨシ原等湿地の減少や消失。釣り人による攪乱。東南アジア等における密猟。
- ❖ 特記事項 東日本大震災津波により、沿岸部の生息地がかなり失われた。国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）

(安藤 泰彦)

## 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 選定要件 ②

## サシバ

タカ目 タカ科

*Butastur indicus* (Gmelin)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 ハシボソガラスと同程度の大きさの中型猛禽類で、全体に茶褐色で胸や腹は白く、横斑や縦斑がみられる。性別による体色の違いは小さいが、雌成鳥では白い眉斑が雄よりやや目立つ傾向にある。
- ❖ 分布の概要 国内には夏鳥として渡来し、沖縄と北海道以外で繁殖が知られる。冬期は南西諸島や台湾、さらに南方の東南アジアなどで越冬する。
- ❖ 生息状況 岩手県内では中部と南部で繁殖が確認されているほか、渡りの時期には県北部でも目撃されることがある。主に台地や丘陵地にある樹林と水田が隣接した環境を好んで繁殖する。
- ❖ 脅威 営巣場所となる里地の樹林の減少。採餌場所となる水田の耕作放棄や畑地化、圃場整備、宅地化。越冬地の東南アジアでの食料資源としての捕獲が最近規制されてきたので、渡り数で見ると減少に歯止めがかかっている。

(前田 琢)



## アオバズク

フクロウ目 フクロウ科

*Ninox japonica* (Temminck & Schlegel)

環境省 なし

- ❖ 形 態 羽角のない丸い頭に大きな黄色の目をしたフクロウの仲間。胸には白地に黒褐色の縦斑。渡来する5～7月頃、夜にホッホー、ホッホーと2声ずつ繰り返して鳴く声の特徴。
- ❖ 分布の概要 夏鳥として日本に渡来する。県内では北上川流域の平地や丘陵、沿岸南部地域の社寺林等に渡来するが多くない。とくに県央以北は少ない。陸前高田市の社寺林で営巣記録があるほか、盛岡市や北上市の社寺林等や河畔林などでも滞在記録がある。
- ❖ 生息状況 平地から丘陵地の河畔林や社寺林等、大木が混じる林を好む。大木の樹洞で営巣するが巣箱を利用することもある。夜行性で、飛び回りながら昆虫類を捕らえる。アンテナや電線、高木などにとまって鳴く。
- ❖ 脅 威 繁殖に適した樹洞のある大木の減少。殺虫剤や農薬使用に伴う大型昆虫類の生息環境の悪化。カラス類の増加と迫害など。
- ❖ 文 献 23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)

(佐賀 耕太郎)

## コノハズク

フクロウ目 フクロウ科

*Otus sunia* (Hodgson)

環境省 なし

- ❖ 形 態 フクロウ類では最も小型。褐色の体に細かな斑紋。羽角があり目は黄色。渡来する5～7月頃、主に夜間、特徴ある3声で繰り返し鳴き、「声の仏法僧」といわれる。
- ❖ 分布の概要 九州以北で夏鳥として日本に渡来する。ブナ林や広がりのある広葉樹林など良好な森林を好み、県央～県北部の北上高地及び奥羽山地で記録があるが多くない。営巣木の枯損などにより、近年では確実な営巣記録もない。県南部では少ないが、移動時期には北上川沿いの低地等でも記録がある。
- ❖ 生息状況 森林の樹洞やキツツキ類の古巣で営巣するが、巣箱を利用することもある。夜行性だが日中に鳴くこともあり、以前はよく鳴き声がした北上夏油温泉付近では聞こえなくなった。
- ❖ 脅 威 広い面積を有する良好な自然林や広葉樹二次林の減少、樹洞のある大径木の減少など。

(瀬川 強)

## トラフズク

フクロウ目 フクロウ科

*Asio otus* (Linnaeus)

環境省 なし

- ❖ 形 態 中型のフクロウ類で、雌雄同色。全体的に茶褐色であるが、黒色、白色、茶色などの羽毛が混じって細かな模様を示す。虹彩は橙色で、頭部に目立つ羽角がある。
- ❖ 分布の概要 国内では北海道～関東で繁殖し、関東以西には冬鳥として渡来する。
- ❖ 生息状況 岩手県内では1984年に盛岡市で繁殖記録があるほか、2005～2010年にも盛岡市で1～2つがいの繁殖および越冬が確認された。しかし、生息地周辺の市街地化が進み、2012年の越冬個体を最後に姿を消した。2012年8月には花巻市で個体が保護されたが、繁殖の有無はわかっていない。冬期には釜石市や岩泉町などで出現の記録があり、花巻市でも2021年に1個体が確認されたが、いずれも一時的な滞在で、継続的な生息はみられていない。
- ❖ 脅 威 宅地化や道路建設などによる、営巣や越冬時に必要な屋敷林、防風林の消失。採餌場所として必要な田畑や果樹園の消失。
- ❖ 文 献 44. 岩手県生活環境部自然保護課編 (1998)、45. 前田琢 (2006)

(前田 琢)

## ブッポウソウ

ブッポウソウ目 ブッポウソウ科

*Eurystomus orientalis* (Linnaeus)

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 全長 30cm。全体が暗い青緑色で赤いくちばしと足、及び飛行時の翼先端の白丸斑が目立つ。声はゲッゲッゲッと濁り、声のブッポウソウと言われるコノハズクとは異なる。
- ❖ 分布の概要 岩手県内での繁殖確認はないが、繁殖期や渡り時期の目撃がある。日本を含む極東アジアで繁殖し、冬期は南国に渡る。中国地方では巣箱で多数が繁殖する。
- ❖ 生息状況 2014 年以降の記録としては、2018 年 7 月 13 日 宮古市牛伏ペア、2018 年 川井腹帯ペア 2 回観察、2021 年 5 月 21 日 大船渡市、2021 年 6 月 2 日 宮古市根城、2022 年 4 月 30 日～5 月 2 日 雫石町鶯宿など。他にも盛岡市川目、山田町と宮古市の峠、陸前高田市内などで観察例がある。
- ❖ 脅威 ブナ林、社寺林など樹洞のある大径木林の減少。

(安藤 泰彦)

## アリスイ

キツツキ目 キツツキ科

*Jynx torquilla* Linnaeus

環境省 なし

- ❖ 形態 体長 18cm、全身が茶褐色や灰褐色で、薄褐色や黒褐色の複雑な斑がある。
- ❖ 分布の概要 ユーラシアの冷温帯と亜寒帯で繁殖し、アフリカ大陸中部・南アジア・東南アジアなどへ南下して越冬する。日本では北海道と東北地方で繁殖し、本州中部以南で越冬する。
- ❖ 生息状況 灌木や藪が点在する疎林や草原に生息する。岩手県では 1970 年代までは各地で繁殖し(由井正敏 私信)、1970～1974 年には県鳥獣保護センターで、1990 年には櫃取湿原で繁殖が観察された。近年は主に春秋に渡りの通過個体が稀に観察され、例えば 2023 年 5 月に八幡平市松尾でさえ個体が確認されている (高橋雅雄 私信)。
- ❖ 脅威 疎林や草原の劣化や消失。
- ❖ 文献 11. 藤井忠志・四ツ家孝司 (2008)、23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)、38. 日本鳥学会 (2012)、46. 藤井忠志 (1990)

(高橋 雅雄)

## コシアカツバメ

スズメ目 ツバメ科

*Cecropis daurica* Laxmann

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 19cm、腰は橙色をしており、尾はツバメより太く長い。体の下面は薄い褐色で多数の細い縦斑がある。
- ❖ 分布の概要 日本には夏鳥として渡来するが、西日本に多く、東日本には少ない。四国や九州では越冬する個体もいる。
- ❖ 生息状況 岩手県内では、宮古市愛宕や陸前高田市での繁殖例があるが、現在は確認されていない。春の渡りの時期、住田町気仙川や宮古市閉伊川で確認されることがあるが、稀である。
- ❖ 脅威 建造物等の営巣地に対する人為的攪乱。農薬の空中散布。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)、47. 岩手放送編 (1978)、48. 藤井忠志・四ツ家孝司 (2014)

(浅川 崇典)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

## コヨシキリ

スズメ目 ヨシキリ科

*Acrocephalus bistrigiceps* Swinhoe

環境省 なし

- ❖ 形態 体長 14cm。体の上面は灰褐色、下面は汚白色で、黒と白の2本の眉斑がある。口内は黄色で、雄は繁殖期にチリチリ・ジュジュ・チュウチュウ等と複雑に囀り、雌雄ともジェジェと鳴く。
- ❖ 分布の概要 中国東北部・中部・朝鮮半島・日本・極東ロシア南部で繁殖し、中国南部や東南アジアで越冬する。日本では北海道～九州の低地～山地の湿性草原で繁殖するが局地的で、北日本では比較的多く見られる。
- ❖ 生息状況 ヨシ原・湿性草原・湿原に生息する。岩手県では、かつては平地の河川敷や山地の牧草地などに広く生息したが、近年に激減し、今では内陸部で散発的に少数が確認されるのみ。近隣の青森県や秋田県では現在も多数が繁殖する。
- ❖ 脅威 繁殖地・渡り中継地・越冬地の湿性草原の減少と劣化。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)、38. 日本鳥学会 (2012)

(高橋 雅雄)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

## ノゴマ

スズメ目 ヒタキ科

*Calliope calliope* (Pallas)

環境省 なし

- ❖ 形態 体長 16cm。雄は全体がオリーブ褐色で鮮紅色のノドが特徴。雌はうす茶色でノド斑はない。キーキョロキーチリリと澄んだ声でさえずる。
- ❖ 分布の概要 日本では北海道の原野や低木林で繁殖し、渡りの時期には各地に単独個体で出現するが、本州では唯一岩手県の高山ハイマツ帯で少数繁殖する。
- ❖ 生息状況 早池峰山や岩手山で少数が繁殖する。渡りの時期には滝沢市野鳥観察舎や各地の低木林で見られる。
- ❖ 脅威 繁殖地である高山帯への登山客の増加。地球温暖化に伴う高山帯樹木の成長。シカによる高山植物の食害。
- ❖ 文献 49. 環境庁 (1986)、50. 岩手県 (1986)、51. 井田俊明・岡部悟 (1980)

(由井 正敏)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

## ホオアカ

スズメ目 ホオジロ科

*Emberiza fucata* Pallas

環境省 なし

- ❖ 形態 体長 16cm、全身は淡褐色で、背・翼・尾は濃褐色、頭部は灰色で細かい黒縞はあり、頬は赤い。喉から胸は白く、特徴的な黒い縦縞や茶色の横縞が入る。
- ❖ 分布の概要 東アジアに分布し、日本では東日本や西日本では留鳥、北日本では夏鳥で暖地へ渡る。
- ❖ 生息状況 比較的乾燥した草原（ススキ草原・牧草地・麦畑など）に生息する。岩手県では、以前は外山・早坂・盛岡市近郊・小岩井・北上川沿いなどの農耕地・牧草地・河川敷に繁殖期に生息していた。現在は内陸部や三陸沿岸の草原で少数が確認される程度で、かなり少なくなっている。
- ❖ 脅威 草原の減少と劣化。
- ❖ 文献 38. 日本鳥学会 (2012)

(高橋 雅雄)

## 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 選定要件 ①②

## コジュリン

スズメ目 ホオジロ科

*Emberiza yessoensis* (Swinhoe)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 15cm、全身が薄褐色で、翼は濃褐色、背に黒褐色の縦斑があり、尾は濃褐色で両脇は白い。頭部は雄の夏羽では黒く、雄の冬羽や雌では濃褐色で淡い眉斑がある。
- ❖ 分布の概要 亜種 *E. y. continentalis* は中国北東部・極東ロシア南部で繁殖し、中国南東部で越冬する。亜種コジュリンは日本の本州と九州の限られた湿性草原で繁殖し、主に東日本以南で越冬する。代表的な繁殖地は仏沼（青森）・岩木川河口（青森）・八郎潟干拓地（秋田）・利根川下流域河川敷（茨城・千葉）・阿蘇（熊本）など。
- ❖ 生息状況 河川敷・湖岸・耕作放棄地などのヨシ原や湿性草原に生息し、下草が豊富な植生環境を好む。岩手県では青森県の繁殖個体が春秋の渡り時期に通過して少数が観察される。主に三陸沿岸の湿性草原で見られるが、内陸部での観察例もある。
- ❖ 脅威 湿性草原の減少と劣化。
- ❖ 文献 38. 日本鳥学会（2012）、52. 高橋雅雄ほか（2016）

（高橋 雅雄）

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ②

## シジュウカラガン

カモ目 カモ科

*Branta hutchinsii* (Richardson)

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 全長 56～81cm 全身がマガンより黒味を帯び、両頬が白く首の付け根に白い輪がある。
- ❖ 分布の概要 アリューシャン列島で繁殖し、越冬季に日本に渡来する。
- ❖ 生息状況 絶滅寸前であったが国際的な保護活動の成功により宮城県では約 5000 羽の飛来が復活した。それに伴い本県においても春は内陸の北上川に沿う地域や沿岸の水田、湖沼等で観察されることが多くなった。秋の渡り時季には一気に南下するためか観察例は少ない、
- ❖ 脅威 広大で静謐な水田域や湖沼の減少、鉛中毒などの可能性。繁殖地での捕食者の増加。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。
- ❖ 文献 53. 盛岡市自然環境総合調査団（1977）

（安藤 泰彦）

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ②

## ハクガン

カモ目 カモ科

*Anser caerulescens* (Linnaeus)

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 全長 66～84cm 体の上面及び下面は純白色であるが、初列風切は黒色である。嘴・足はピンク色。
- ❖ 分布の概要 カナダ北部・アラスカ・シベリア東部等で繁殖し、冬季に北アメリカ大陸西部や日本に渡来する。
- ❖ 生息状況 1940 年代までに国内の越冬個体群は絶滅したと考えられていたが、国際共同計画としてハクガン復元計画が実行された結果、飛来数は増加傾向にある。それに伴い本県においても春は内陸の北上川に沿う地域や沿岸の水田、湖沼等で観察されることが多くなった。秋の渡り時季には一気に南下するためか観察例は少ない、
- ❖ 脅威 広大で静謐な水田域や湖沼の減少、鉛中毒などの可能性。繁殖地での捕食者の増加。
- ❖ 文献 53. 盛岡市自然環境総合調査団（1977）

（安藤 泰彦）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

# ヒシクイ

カモ目 カモ科

*Anser fabalis* (Latham)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形 態 ほぼ体全体が暗褐色で嘴は黒く先端に橙黄色の帯があるガン類。全長 78～100cm で、マガンに比べ一回り大形。
- ❖ 分布の概要 ユーラシア大陸北部で繁殖し、越冬季に日本に渡来する。
- ❖ 生息状況 秋の渡り時季には一気に南下し、県内では上空通過が多い。春は内陸の北上川に沿う地域や沿岸の水田、湖沼等で観察されるが警戒心が強く、ねぐらは広い水面や湿地などを利用することが多い。マガンよりかなり少ない。
- ❖ 脅 威 広大で静謐な水田域や湖沼の減少、鉛中毒などの可能性。
- ❖ 特記事項 国の天然記念物。
- ❖ 文 献 54. 藤井忠志・四ツ家孝司 (2011)

(安藤 泰彦)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

# カリガネ

カモ目 カモ科

*Anser erythropus* (Linnaeus)

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形 態 全長 55～66cm。マガンより一回り小さく、全身が暗褐色で下面がやや淡い。嘴はピンク色で短め、その基部から頭頂にかけての羽毛が白い。目の回りが黄色く目立つ。腹に黒褐色の横斑がある。
- ❖ 分布の概要 ユーラシア大陸の北極圏で繁殖し、冬期ヨーロッパ南部・中近東・中国に渡る。日本には数少ない冬鳥として渡来する。宮城県北部には小群が定期的に飛来する。1973 年 11 月に宮古市閉伊川で幼鳥 1 羽、2007 年 11 月 23 日～30 日に御所湖周辺の雫石水田で 9 羽が滞在した。2021 年 3 月から 3 年連続で春の渡り時期に雫石水田に 30 羽が 1 週間ほど滞り、秋田駒ヶ岳方向に飛び去るのを観察した。
- ❖ 生息状況 岩手県内では渡りの途中に滞在する。
- ❖ 脅 威 静かな湖沼や水田域の減少。
- ❖ 文 献 54. 藤井忠志・四ツ家孝司 (2011)

(四ツ家 孝司)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

# ハシジロアビ

アビ目 アビ科

*Gavia adamsii* (Gray)

環境省 なし

- ❖ 形 態 全長 76～91cm。上に反った長い黄白色の嘴が特徴の外洋性海鳥。冬羽は褐色で下面は白い。夏羽は背が黒褐色で白斑がある。
- ❖ 分布の概要 ユーラシア大陸から北アメリカの北極圏で繁殖し、冬季は少数が北日本の沿岸に渡来する。北海道では観察例も多いが、本州では少なく、最近では県内沿岸では稀である。
- ❖ 生息状況 県内には冬季、少数が渡来する。県北部の八木港や田老海岸、宮古湾、吉浜湾などに渡来したが、最近では稀。1970 年代に田老海岸で 12 羽や 1991 年に吉浜湾で 6 羽が観察された。外洋性のため三陸沖のフェリー航路では観察されている。宮古湾では 1980 年にカレイ底刺網の犠牲となった。
- ❖ 脅 威 刺し網漁での混獲、タンカー船の事故による海洋汚染、餌となる魚の減少。
- ❖ 文 献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)、55. 千嶋淳 (2016)

(関川 實)

## シノリガモ

カモ目 カモ科

*Histrionicus histrionicus* (Linnaeus)環境省 絶滅のおそれのある地域個体群  
(東北地方以北のシノリガモ繁殖個体群)

- ❖ 形態 全長 38～45cm。オスは藍黒色で脇は赤茶色、顔の前半部と目の後、胸や背などに白斑模様が目立つ。メスは灰褐色で下面はやや淡く、目の回りに白斑模様があり、雌雄ともに特徴ある色彩紋様を持ったカモである。
- ❖ 分布の概要 主に冬鳥として沿岸に渡来する海ガモ。近隣の青森県や宮城県では山間溪流で少数が繁殖する。おおむね深い森林地域でブナ等の広葉樹林が水辺を覆い被するような溪流に生息する。
- ❖ 生息状況 三陸沿岸の岩礁の多い海岸に渡来するが、内陸の盛岡市や北上市の河川でも稀に記録がある。繁殖期の春～夏は安比川（1992 年 7 月）、和賀川支流（1998 年 5 月）で確認情報があるが、県内の確実な繁殖記録はない。
- ❖ 脅威 冬季の狩猟時における狩猟鳥との誤認。放置された釣り糸や魚網等による事故。海洋汚染。山間溪流への釣り人等の入込み増加。ブナ林などの森林地域における改変。

(安藤 泰彦)

## ヨタカ

ヨタカ目 ヨタカ科

*Caprimulgus jotaka* Temminck & Schlegel

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 体長 29cm、全身黒褐色で灰色小斑が各所にある。日が没してから飛び立ち、キョキョキョキョッと鳴いて飛び回る。翼先端の白斑が目立つ。地面や枝にいる時は体を水平にする。
- ❖ 分布の概要 九州以北で夏鳥として繁殖し、かつては県内各地の低山地から亜高山帯まで普通に生息していた。東アジアからインドまで分布し、日本のものは東南アジアで越冬する。県内各地で確認されるが、数は減少している。
- ❖ 生息状況 採餌に飛び回る環境は伐採跡地や草地上など疎開地が多く、また産卵も疎開地なので林縁性の鳥と思われる。ブナ林でも声が聞かれるが、主に低山地から山地の広葉樹林や伐採植林地に生息する。県内各地の伐採地・草地・亜高山帯で夜間にしばしば声が聞こえ、樹木の散在する広い河川敷にも生息する。全国的には増えているが、岩手県内ではほぼ全域で記録も少なく減少していると思われる。
- ❖ 脅威 林業の持続的生産が行われず、疎開地が減っていること。

(瀬川 強)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ①

## ジュウイチ

カッコウ目 カッコウ科

*Hierococcyx hyperythrus* (Gould)

環境省 なし

- ❖ 形 態 体長 32cm、他のカッコウ類に比べ顔と背中中は黒く、腹部が橙黄色で横斑がない。ジーチン、ジーチン、ビビビビッと鳴く。一見ツミ雄に似るが、くちばしの先がカギ型に下に曲がらない。カッコウやホトトギスと同様に自ら巣を作らない托卵鳥で、主にオオルリ・コルリ・ルリビタキなどが仮親となる。
- ❖ 分布の概要 北海道から九州までの山地で夏鳥として繁殖し、岩手県内では亜高山帯を主とする森林地帯に生息する。もともと多い種ではないが、早池峰山、八幡平、和賀山塊以南の奥羽山脈などの亜高山帯や沿岸部急斜地で鳴き声が聞かれる。
- ❖ 生息状況 かつてはブナ林などに行くとき独特の鳴き声がよく聞かれたが、近年はほとんど聞こえなくなってきた。主にジュウイチが托卵するコルリが好む下層植生がシカの食害で減ったことが考えられる。
- ❖ 脅 威 亜高山帯森林の開発。越冬地の森林開発。ハクビシンなど外来種の増加。シカの食害による下層植生の消失。

(瀬川 強)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ②

## クイナ

ツル目 クイナ科

*Rallus indicus* Blyth

環境省 なし

- ❖ 形 態 全長 29cm、体上面は褐色で黒い縦斑があり、下面は顔から胸が青灰色、腹から下尾筒が白黒の縞模様で、嘴・目・脚は赤い。
- ❖ 分布の概要 ユーラシアの亜寒帯と温帯の一部で繁殖し、北方の一部は南下して越冬する。日本では、北海道～本州中部で繁殖し、北日本では夏鳥、東日本では留鳥、西日本では冬鳥。
- ❖ 生息状況 河川・湖沼・水田・休耕田・湿原などの湿地や湿性草原に生息する。岩手県では数が多く、1980 年前後に盛岡市雫石川で繁殖期につがいが観察され、近年は滝沢市春子谷地で繁殖が確認されている。春秋に渡り個体が内陸部や三陸沿岸を通過し、盛岡市高松公園などでは少数が越冬する。
- ❖ 脅 威 湿地や湿性草原の減少と劣化。
- ❖ 文 献 38. 日本鳥学会 (2012)、56. 伊達功 (2008)、57. 伊達功 (2010)

(高橋 雅雄)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ②

## コチドリ

チドリ目 チドリ科

*Charadrius dubius* Scopoli

環境省 なし

- ❖ 形 態 体長 16cm、上面は淡褐色で、下面は白い。前部と胸に黒帯があり、目には黄色いアイリングが目立つ。足は淡黄色。
- ❖ 分布の概要 ユーラシアの亜寒帯から熱帯にかけて分布し、アフリカ・南アジア・東南アジアなどで越冬する。日本では全国で繁殖し、北日本のものは南下して越冬する。
- ❖ 生息状況 海岸・干潟・水田などの水辺に生息し、河川の砂礫地や農耕地、砂利敷の駐車場などで繁殖する。岩手県では北上川流域の低地や三陸沿岸で少数が繁殖する。
- ❖ 脅 威 河川の砂礫地の劣化や消失、繁殖地へのオフロード車両の侵入による巣の破壊。
- ❖ 文 献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)、23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)、38. 日本鳥学会 (2012)

(高橋 雅雄)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

## ヤマシギ

チドリ目 シギ科

*Scolopax rusticola* Linnaeus

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 34cm。ジシギ類の中では最も大きくずんぐりしている。全体に赤褐色が強く、くちばしも太いので他種と区別できる。繁殖期の夕方には林の上空をチキッチキッ、ブーブーと鳴きながら飛ぶ。
- ❖ 分布の概要 ユーラシア大陸中緯度に広く分布し、日本では北海道や本州で繁殖する。岩手県内では全県的に低山地からブナ帯でしばしば見られた。
- ❖ 生息状況 かつては早池峰山麓や花巻地方、盛岡市東部など岩手県内各地の落葉樹林で繁殖期に目撃され、また秋期には低山地の溪流沿いで観察されたが、近年は少ない。県内の最近のアセス調査で少数の記録がある。2014 年 4 月 27 日 岩手大学構内で落鳥。2020 年 1 月 紫波町内の砂防ダムで確認された
- ❖ 脅威 低山帯の開発。岩手県を含め大半の県で狩猟鳥に指定。

(安藤 泰彦)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

## カンムリウミスズメ

チドリ目 ウミスズメ科

*Synthliboramphus wumizusume* (Temminck)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 全長 24～26cm。上面は青灰色で下面が白く、夏羽は頭頂に黒い冠羽があり、足に蹼があり潜水に適応した体形。
- ❖ 分布の概要 九州の枇榔島や伊豆諸島の三宅島が主な繁殖地。繁殖後は太平洋沿岸を北上し、サハリン沖まで行く。三陸沖では、太平洋沿岸を北上する 6～7 月頃に見られる。
- ❖ 生息状況 県内では、かつてわずかの記録あり。2012 年 7 月に普代沖や大船渡市沖の調査で確認された。最近では、宮古沖の夏期の洋上観察で少群が観察されている。
- ❖ 脅威 刺し網による混獲、海洋汚染、餌の小魚等の減少。
- ❖ 特記事項 日本特産種。国の天然記念物指定。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)、58. 日本野鳥の会自然保護室、3. 日本野鳥の会宮古支部 (2020–2023)

(関川 實)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

## ウトウ

チドリ目 ウミスズメ科

*Cerorhinca monocerata* (Pallas)

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 38cm、頭部から背面にかけて暗褐色、腹部は白色。嘴は橙色である。夏羽では目の周りに特徴的な二本の白い飾り羽が生え、嘴の上に突起ができる。冬羽では飾り羽や突起がなくなる。
- ❖ 分布の概要 北太平洋沿岸にかけて広く分布する。日本では北海道の天売島・ユルリ島・モユルリ島・大黒島、青森県の弁天島や鯛島、宮城県の足島などで繁殖が確認されている。
- ❖ 生息状況 岩手県内では周年洋上で普通に見られる。1950 年代に陸前高田市椿島での繁殖記録があり、その後の繁殖は確認されていないが、2024 年に島周辺で群れが確認された。周年、洋上で普通に見られる。離島や岩礁の草が生えた斜面に 1～5 m の穴を掘って産卵する。繁殖地では、日中は洋上で採餌などして過ごす、日が落ちる頃にはイカナゴなどの魚をくわえて一斉に帰巢する。潜水して、小魚やイカなどを捕食する。
- ❖ 脅威 刺し網漁や延縄漁による混獲。
- ❖ 文献 17. 山本弘 (1955)、23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)、40. 陸前高田市史編集委員会編 (1994)

(浅川 崇典)



## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ①

## ヒメウ

カツオドリ目 ウ科

*Urile pelagicus* Pallas

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 全長 73cm、全身が黒色で青色や紫色の光沢を帯びる。ウミウに似ているが、一回り小さく、嘴も細い。繁殖期になると頭頂と後頭に換羽が生え、嘴の根元が赤色になる。
- ❖ 分布の概要 ベーリング海を含む北太平洋に分布する。かつては本州北部や九州の日本海側でも繁殖したが、最近の確実な繁殖記録があるのは北海道の天売島のみとなっている。
- ❖ 生息状況 岩手県には冬季、沿岸部に渡来し越冬する。岸壁や岩礁のある海域に生息するが、湾内や河口でも見られることがある。大きな群れとなることは少なく、単独あるいは3～4羽で確認されることが多い。ウミウの群れに混じることもある。潜水して主に魚類を捕食する。
- ❖ 脅威 刺し網漁や延縄漁による混獲。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)

(浅川 崇典)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ①

## ゴイサギ

ペリカン目 サギ科

*Nycticorax nycticorax* (Linnaeus)

環境省 なし

- ❖ 形態 体長 58cm、頭と背は紺色、翼と尾は灰色、下面は白く、頭頂から白く細長い冠羽が生える。嘴は黒く、目は赤く、脚は黄色。
- ❖ 分布の概要 オーストラリア・オセアニアを除く全世界の温帯・熱帯に分布する。日本では本州以南で繁殖し、北日本のものは南下して越冬する。
- ❖ 生息状況 河川・湖沼・水田などの水辺に生息し、近隣の林地で集団で繁殖する。岩手県では、主に内陸部や三陸沿岸の平地の河川・湖沼・水田に生息する。近年、分布域が全国的に著しく減少し、岩手県でも減少が顕著である。
- ❖ 脅威 水辺環境の劣化や消失、集団営巣地の人為的破壊。
- ❖ 特記事項 2013年6月に狩猟鳥の指定から外された。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)、38. 日本鳥学会 (2012)

(高橋 雅雄)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ②

## チュウサギ

ペリカン目 サギ科

*Ardea intermedia* (Wagler)

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 全長 68cm。全身が白く、夏羽では背から飾り羽が出る。足は黒く、シラサギ類では短めの黒い嘴。
- ❖ 分布の概要 九州～本州に夏鳥として渡来する。
- ❖ 生息状況 県内で繁殖の記録はないが、沿岸や内陸平野部で、夏の終わりに見られる。8月初旬に県内内陸部上空を数十羽のシラサギ類が北上する観察例があり、これは関東で繁殖した本種個体が一度北上してから越冬地である東南アジアに飛び去るためと考えられる。他のシラサギは湿地に多いが、本種は比較的乾いた耕作地等でバッタなどを捕食している。
- ❖ 脅威 湖沼の開発、農薬汚染。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)、36. 遠藤公男他 (1987)

(安藤 泰彦)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ②

## ハチクマ

タカ目 タカ科

*Pernis ptilorhynchus* (Temminck)

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 トビと同じくらいの大きさの猛禽類で、長い翼を有する。上面はおおむね暗褐色または褐色であるが、下面や翼においては、色彩、濃淡、斑紋の幅や数などの個体変異が大きく、さまざまなタイプが知られる。
- ❖ 分布の概要 全国に夏鳥として渡来し、各地で繁殖がみられる。
- ❖ 生息状況 岩手県内ではほぼ全域にわたり山地や丘陵地などで生息確認がある。
- ❖ 脅威 森林伐採による営巣環境の減少。営巣地周辺における人為活動による攪乱。岩手県内で風力発電施設への衝突も確認されている。
- ❖ 文献 59. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1995)

(前田 琢)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ②

## ツミ

タカ目 タカ科

*Accipiter gularis* (Temminck & Schlegel)

環境省 なし

- ❖ 形態 キジバトよりも小さい小型の猛禽類で、雄成鳥は青灰色の背中と橙色を帯びた胸が特徴的。雌成鳥は胸や腹に褐色の横斑がある。虹彩の色は雄では赤く雌は黄色。飛翔時に翼先に突出する風切羽根が5本見える特徴がある。
- ❖ 分布の概要 全国に生息するが東日本に多い。冬期は一部が国内の暖地や東南アジアに渡る。
- ❖ 生息状況 岩手県内ではほぼ全域にわたり生息確認があり、春と秋の渡りの時期に観察されることが多い。
- ❖ 脅威 森林伐採などによる営巣木の消失、繁殖活動の攪乱。

(前田 琢)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ②

## ハイタカ

タカ目 タカ科

*Accipiter nisus* (Linnaeus)

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 雄はキジバト程度、雌はそれよりひとまわり大きい小型の猛禽類で、丸く短めの翼を持つ。ともに胸から腹にかけては白地に横斑を有し、雄の横斑は橙色を帯び雌は暗褐色。雌の白い眉斑は雄よりも目立つ。
- ❖ 分布の概要 全国に生息するが九州や沖縄では冬鳥。越冬期には国外からの渡り個体も混じる。
- ❖ 生息状況 岩手県内ではほぼ全域にわたり生息確認がある。山地や丘陵地の森林で繁殖するが、非繁殖期は平野部の農耕地や市街地でも目撃される。
- ❖ 脅威 森林伐採などによる営巣木の消失、繁殖活動の攪乱。
- ❖ 文献 59. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1995)

(前田 琢)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

## オオタカ

タカ目 タカ科

*Accipiter gentilis* (Linnaeus)

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 体長 雄 50cm、雌 56cm、上面は暗青灰色で白い眉斑があり、下面は白くて胸と腹に黒く細い横縞がある。目と脚は黄色。
- ❖ 分布の概要 ユーラシアと北アメリカの寒帯・温帯に広く分布する。日本では北海道～九州で繁殖する。
- ❖ 生息状況 山地や平地の森林・農耕地・河川・湖沼など幅広い環境に生息し、林地で繁殖する。岩手県では山地や平地で広く見られ、里山や市街地近くのアカマツ林やカラマツ林でも繁殖する。
- ❖ 脅威 営巣林の伐採、人工物との衝突、他の猛禽類との競合。
- ❖ 特記事項 2017 年 9 月に国内希少野生動植物種から解除された。
- ❖ 文献 7. 環境省 (2014)、60. 環境省

(高橋 雅雄)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

## オオコノハズク

フクロウ目 フクロウ科

*Otus semitorques* Temminck & Schlegel

環境省 なし

- ❖ 形態 コノハズクよりやや大きく、羽角もやや長い。褐色～灰褐色で黒の細かな斑紋があり、目は橙色。あまり鳴かないが、繁殖期にはウォッ、ウォッと低い声で鳴く。
- ❖ 分布の概要 全国で留鳥として繁殖し、北海道の個体は冬期に南へ移動する。平地から山地の大径木のある樹林に生息するが、人里近くの社寺林等にも生息する。確実な生息記録は多くないが、2017 年盛岡玉山で幼鳥の死骸の他、県北～県央部、沿岸部で確認記録がある。秋の漂行時には河川沿いの低地などでも確認されている。
- ❖ 生息状況 夜行性でネズミ類などの小動物や小鳥、昆虫などを捕食する。主に大径木の樹洞で繁殖するが、人里の作業小屋や宮古タイマグラ、滝沢市平蔵沢で巣箱の営巣例(2012 年)がある。盛岡市雫石川河川敷で標識調査中に漂行個体が確認されたこともあるが、目に付きにくいこともあり記録は極めて少ない。
- ❖ 脅威 樹洞のある大径木の減少。土地改変や環境汚染に伴う餌動物の生息環境の悪化。カラス類の増加など。

(瀬川 強)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

## アカショウビン

ブッポウソウ目 カワセミ科

*Halcyon coromanda* (Latham)

環境省 なし

- ❖ 形態 体長 27.5cm でくちばしは赤、その他全身が赤褐色で、尾筒上部が青色。他に類似種はない。夏の雨曇りの時にキョロロロロと長く繰り返して鳴き、時にピョーピョーとも言う。
- ❖ 分布の概要 東南アジアから中国かけて分布する。屋久島以北の日本全土に夏鳥として渡来し、県内では山地の溪流沿いに広く薄く分布し、ほぼ全域で確認されている。
- ❖ 生息状況 北海道を除き全国的には増加傾向にある。岩手県ではかつて奥羽山脈や北上山地、さらには海岸部や内陸近郊でも繁殖期に生息し一時は減少したが、近年は沿岸部でも復活しつつある。最近では遠野市、北上市夏油で繁殖記録があり、花巻市、雫石町、住田町、西和賀町などの溪流や湖畔で、鳴き声とともに姿も見られる。
- ❖ 脅威 越冬地、繁殖地における森林伐採、溪流沿いの大径木林の減少や開発、気候変動による大雨などの際の溪流の汚濁。風力発電の建設など。
- ❖ 文献 84. 鳥類繁殖分布調査会(2021)

(瀬川 強・浅川 崇典)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

## チゴハヤブサ

ハヤブサ目 ハヤブサ科

*Falco subbuteo* Linnaeus

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 雄 34cm、雌 37cm で、翼は長く尾は短い。上面は青みのある黒褐色で、下面は喉から腹が白く、胸や脇に黒い縦斑があり、下腹部から下尾筒は赤茶色。繁殖期にキィキィキィキィと大声で鳴く。
- ❖ 分布の概要 ユーラシアの寒帯から温帯で繁殖し、アフリカ南部・インド・東南アジア・中国南部で越冬する。日本では夏鳥で、主に北海道と東北地方で繁殖し、他地方では渡り時期に通過する。
- ❖ 生息状況 市街地・農耕地・河川敷など開けた環境に生息し、林地や人工物にあるカラス類の古巣を利用して営巣する。岩手県内では県北や県央の内陸部の平野で見られ、寺社林や屋敷林で少数が繁殖する。近年は少し減少傾向にある。
- ❖ 脅威 営巣林や営巣木の伐採、餌資源の減少、天敵（カラス類）の増加。
- ❖ 文献 38. 日本鳥学会（2012）

（高橋 雅雄）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

## サンショウクイ

スズメ目 サンショウクイ科

*Pericrocotus divaricatus* (Raffles)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 体長 20cm。額と喉、腹部が白色、背部が灰褐色で尾の長いきれいな鳥。ヒーリリッ、ヒーリリッと鳴く。
- ❖ 分布の概要 岩手県内では低山地からブナ帯下部の茂った落葉広葉樹林に生息する。沿海州及び本州、四国、九州の森林で繁殖し、本土のものは冬季東南アジアに渡る。近年、亜種のリュウキュウサンショウクイが北上中。
- ❖ 生息状況 1980 年以前は県内各地で繁殖が確認されたが、1990 年前後にはかなり減少した。最近では再び県内各地で普通に記録されるようになった。現在、継続して繁殖している地点がある一方、過去に記録されたがその後確認されない地点もある。
- ❖ 脅威 低山帯広葉樹林の開発、越冬地である東南アジアの森林開発。
- ❖ 文献 61. 鈴木祥悟ほか（2012）、62. 岩手県滝沢森林公園野鳥観察の森（2011-2023）、63. 日本野鳥の会もりおか（1980-2023）

（由井 正敏）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

## セッカ

スズメ目 セッカ科

*Cisticola juncidis* (Rafinesque)

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 13cm、全身淡褐色で上面に黒い縦斑があり、下面は白っぽい。尾は根元が淡褐色、中ほどは黒、先端は白で特徴的な縞模様を作る。繁殖期の雄は口内が黒く、ヒッヒッヒッヒッと囀りながら旋回飛翔し、下降しながらチャッチャッチャッと囀る。
- ❖ 分布の概要 ヨーロッパ南部・アフリカ・南アジア・東南アジア・東アジア・オーストラリア北部に分布する。日本では本州以南で繁殖し、積雪地域のものは南下して越冬する。
- ❖ 生息状況 乾燥した草原に生息する。岩手県では、かつては盛岡市の草地や宮古市の河川敷で見られたが、近年の確認例はほぼ無く、2023 年 8 月 29 日に陸前高田市高田松原で雄 1 羽が観察されたのみ（高橋雅雄 私信）。近隣の青森県では東部（三沢市・八戸市など）で稀に観察される。
- ❖ 脅威 草原の減少と劣化。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、38. 日本鳥学会（2012）

（高橋 雅雄）

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ①

## キバシリ

スズメ目 キバシリ科

*Certhia familiaris* Linnaeus

環境省 なし

- ❖ 形態 体長 14cm で、木走りの名の通り、樹幹を垂直に這って登る。背中ハリモグラのように灰褐色で斑点がある。腹部は汚白色。白い眉斑がある。さえずりはチーリリリで複雑だが、地鳴きは太くリーと鳴く。
- ❖ 分布の概要 九州以北の全国に留鳥として分布するが数は少なく、奥羽山脈から北上高地まで、山地から亜高山帯針葉樹林やブナ林などの広大な森林地帯に生息する。八幡平、盛岡、滝沢、雫石、矢巾、宮古、花巻、遠野西和賀などで数回の確認記録はあるが、冬季には里山にも降りてきて、カラ類の中に稀に確認される。
- ❖ 生息状況 かつてはカラ類の混群の中で普通に見られたが、近年においてはほとんど見る事がなくなってきた。全国的には確認記録は増えているが県内の繁殖確認記録は少なく、2017 年 4 月遠野市宮守で朽木での繁殖記録がある。
- ❖ 脅威 生息環境の変化や自然林の開発消失。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)、64. 日本野鳥の会北上支部編 (2022)、65. カタクリの会 奥羽自然観察会の記録 (2010-2022)、66. 日本野鳥の会 北上支部会報 (2010-2022)

(瀬川 強)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ②

## サメビタキ

スズメ目 ヒタキ科

*Muscicapa sibirica* Gmelin

環境省 なし

- ❖ 形態 態 サメビタキ類中最も暗色で胸から脇にかけての灰褐色が濃く、縦斑がエゾビタキと異なり不鮮明。
- ❖ 分布の概要 国内では北海道や本州で繁殖し、バイカル湖周辺からウスリー、サハリンなどにも分布し冬季は中国南部、東南アジアに渡る。
- ❖ 生息状況 オオシラビソやコメツガなど亜高山の針葉樹、針広混交林の梢近くの横枝に巣を作る。岩手山などに生息するが個体数は少ない。渡りの途中には市街地でみられることがある。
- ❖ 脅威 亜高山帯域の開発、気候変動による植生の退行など。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編 (1978)、68. 日本野鳥の会もりおか (2019)、70. 日本野鳥の会北上支部編 (2022)

(高橋 知明)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ①②

## コマドリ

スズメ目 ヒタキ科

*Larvivora akahige* (Temminck)

環境省 なし

- ❖ 形態 態 体長 14cm、雄の頭部は暗赤色、体は褐色。雌はややくすんだ同色。岩手県内で類似の種はない。
- ❖ 分布の概要 主に県内の亜高山帯オオシラビソ林に生息し、その他岩泉町櫃取湿原、和賀山塊、焼石・栗駒山塊などのブナ林に少数生息する。日本全土及びサハリン、千島南部で繁殖し、中国南部と台湾で越冬する。
- ❖ 生息状況 早池峰山や八幡平の斜面地形では少数の個体のさえずりが聞かれるが、その他の地域では生息数が少ない。春の渡りの時期には山地の溪流などで移動中の姿が見られることもある (2021 年 4 月 22 日、雫石町鶯宿ダム付近)。
- ❖ 脅威 亜高山帯自然林の開発。
- ❖ 文献 22. 盛岡市自然環境総合調査団編 (1977)、23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)、67. 日本野鳥の会北上支部 (2011)、68. 日本野鳥の会もりおか (2019)

(嶋田 和明)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ②

## ノビタキ

スズメ目 ヒタキ科

*Saxicola stejnegeri* (Parrot)

環境省 なし

- ❖ 形 態 体長 13cm。雄の夏羽は黒い頭背部と白い腹部、及び首周りと翼、尾部の白斑、喉の赤褐色班が目立つ。雌は全体にくすんだ赤褐色であるが、やはり翼の白斑が目立つ。
- ❖ 分布の概要 ユーラシア大陸からアフリカにかけて広く分布する。日本では主に北海道～本州中部の草原や河原で繁殖し、冬期は東南アジアに渡る。30年前は玉山・平庭・折爪・種山などの北上高地の草地で繁殖期に普通に見られたが、最近は少数が繁殖するのみ。ただし渡りの時期は各地で目撃される。
- ❖ 生息状況 玉山牧野、種山高原、松尾八幡平鉾山跡地、西和賀町の貝沢高原、雫石町の上野沢牧野などで少数が繁殖する。
- ❖ 脅 威 在来植物種からなる旧採草地の近代牧野への変換、草原の開発。
- ❖ 文 献 54. 藤井忠志・四ッ家孝司（2011）、69. 東北地域環境計画研究会（2000）

(四ッ家 孝司)

## 準絶滅危惧 (NT)

## 選定要件 ①

## イワヒバリ

スズメ目 イワヒバリ科

*Prunella collaris* (Scopoli)

環境省 なし

- ❖ 形 態 全長 17～19cm。頭部から胸は灰色、喉は白と灰色の細かいまだら模様、翼と尾羽は黒く羽縁は茶褐色。
- ❖ 分布の概要 中央アジア・ヒマラヤ・極東南部・中国・台湾などに分布する。本州中部や北部の高山帯で繁殖する。
- ❖ 生息状況 岩手山や早池峰山などの岩礫地や岩場、お花畑などに生息する。本州北限に近い個体群として重要。山地帯の崖地で越冬する。
- ❖ 脅 威 火山活動などによる生息環境の変化。越冬場所となる山地帯の崖地の環境改変
- ❖ 文 献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）

(安藤 泰彦)

## 留意

## 選定要件 ①

## オシドリ

カモ目 カモ科

*Aix galericulata* (Linnaeus)

環境省 情報不足

- ❖ 形 態 雄の羽色は日本産カモ類中最も色彩に富む、銀杏羽と呼ばれる三列風切羽などが特徴的。
- ❖ 分布の概要 中国東北部やサハリン等に分布する。北海道～本州中部で繁殖し、主として西日本等で越冬するが、本県の一部河川や湖沼で冬季生息している。
- ❖ 生息状況 樹洞性のカモ類で溪流畔や平地流河畔の広葉樹林などで繁殖するが、水田地帯などでは社寺林が営巣やねぐらに利用されることがある。ナラ類の種子、水生昆虫類などを餌とする。
- ❖ 脅 威 河川源流域等の大木の伐採。河畔林、ヤナギ低木林、ツルヨシ群などの過剰な刈り払い。
- ❖ 文 献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）、22. 盛岡市自然環境総合調査団編（1977）

(安藤 泰彦)

## ヨシガモ

カモ目 カモ科

*Mareca falcata Georgi*

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 48cm。雄の頭部は扁平で側面が緑色。頭部は栗色（光線によっては赤紫色にも見える）喉は白く黒い輪がある。三列風切は長く、鎌形に垂れていて、下尾筒の両脇にクリーム色の班がある。雌は全身が褐色で、暗褐色の班がある。
- ❖ 分布の概要 シベリア東部やサハリンで繁殖し、朝鮮半島や中国東部で越冬する。日本では数少ない冬鳥として、主に九州以北に飛来する。北海道では少数は繁殖する。岩手県内では冬鳥として少数が飛来する。渡りの時期には御所湖（雫石町）で1～10羽が見られる。
- ❖ 生息状況 波静かな入り江を好み、河川でも同様に、周囲に葦原と安全な草地のある場所で越冬する。
- ❖ 脅威 湾、河川などの自然地形などの過度の人工的改変。
- ❖ 文献 54. 藤井忠志・四ッ家孝司（2011）

(四ッ家 孝司)

## カワアイサ

カモ目 カモ科

*Mergus merganser Linnaeus*

環境省 なし

- ❖ 形態 全長は雄が 68cm、雌は 60cm でアイサ類では最大。雄は緑黒色の頭部で冠羽はないが後頭部がふくらんで見える。赤く細長い嘴で先端がかぎ状に曲がっている。黒い背と胸、腹が白く、カモ類の中では、最も細長く見える。
- ❖ 分布の概要 北海道で少数が繁殖。本州以南に冬鳥として飛来するが北日本に多い。各地の河川や湖沼で観察され、内湾や沿岸部の浅瀬にも生息している。近年盛岡市周辺では個体数が増える傾向があり、「ガンカモ類の生息調査」でも普通に出現する。
- ❖ 生息状況 厳冬期にダム湖が凍結すると、河川に移動する。広いダム湖では警戒心が強く、岸に接近することは少ないが、高松の池では、次々と潜水して採餌しているうちに岸に接近することもある。10～20羽の群れでいることが多い。主に動物食だが、高松の池ではパンを食べにくる個体もいる。近年、越夏個体が増加している。
- ❖ 脅威 餌となる魚類など水生生物の減少、汚染が考えられる。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）、36. 遠藤公男他（1987）

(安藤 泰彦)

留意		選定要件 ①
ヤマドリ		キジ目 キジ科
<i>Syrnaticus soemmerringii</i> (Temminck)		環境省 なし

- ❖ 形 態 全長は雄 125cm、雌 55cm。雄成鳥は非常に長い尾羽を持つ。地域によって羽の模様が異なり、5つの亜種に分けられる。ほとんど鳴かず、雄は羽をドドドドと打ち鳴らすドラミングを行う。
- ❖ 分布の概要 留鳥として本州から九州までの山地の森林に分布する。
- ❖ 生息状況 岩手県内では、ほぼ全域の山地に生息している。冬季には里地に姿を現すこともある。1970年代から1990年代にかけて、全国的に減少傾向にあったが、近年は回復傾向にある。岩手県内においても生息が確認された地点が増加している。主に地上で生活し、昆虫やミミズ、木の実や草の種子などを餌にする。木の根元や倒木の近くのくぼみに、枯れ葉を敷いた巣を作る。
- ❖ 脅 威 狩猟圧。地上性捕食者の増加。広葉樹林から針葉樹林への転換。シカの林内下層の食害による隠れ家の消失。
- ❖ 特記事項 日本固有種。
- ❖ 文 献 23. 植田睦之・植村慎吾（2021）

（浅川 崇典）

留意		選定要件 ①
ハリオアマツバメ		アマツバメ目 アマツバメ科
<i>Hirundapus caudacutus</i> (Latham)		環境省 なし

- ❖ 形 態 全体が黒褐色で背中央は灰白色。喉、下腹、下尾筒および三列風切2枚は白い。尾は短めで角尾、羽軸が強く先端は針状に突出する。
- ❖ 分布の概要 日本では夏鳥として本州北部に4月頃渡来するほか、他地域を渡りの時期に通過する。ブナ帯や亜高山以上の高い地域で確認できるが、繁殖地の確認はほとんどない。
- ❖ 生息状況 岩手県内各地で夏季（5～6月）に少数が目撃されるが、繁殖確認はない。東北地方の繁殖記録は、白神山地「クマゲラの森」で1994年7月にクマゲラのねぐら木を利用した1例のみ（根深 私信）。
- ❖ 脅 威 開発などによる人為的インパクトのために、餌や営巣木の不足が生存への危惧条件となろう。
- ❖ 文 献 20. 藤井忠志（1999）、23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、68. 日本野鳥の会もりおか（2019）、71. 日本野鳥の会北上支部（2011）、72. 日本野鳥の会北上支部（2022）

（嶋田 和明）

留意		選定要件 ①
カッコウ		カッコウ目 カッコウ科
<i>Cuculus canorus</i> Linnaeus		環境省 なし

- ❖ 形 態 全長 35cm、頭と背は青灰色、翼と尾は黒褐色、胸や腹は白く、細く黒い横縞がある。嘴は黒く、目と脚は黄色。
- ❖ 分布の概要 ユーラシア北部・中部で繁殖し、ユーラシア南部やアフリカで越冬する。日本では九州以北に夏鳥として渡来する。
- ❖ 生息状況 疎林や低木・藪の混じった草原に生息し、オオヨシキリやモズなどに托卵する。岩手県では内陸部や三陸沿岸の平地、奥羽山脈や北上山地の高原などで見られる。
- ❖ 脅 威 疎林・草原環境の劣化や消失、托卵相手であるオオヨシキリの減少。
- ❖ 文 献 38. 日本鳥学会（2012）

（高橋 雅雄）



留意		選定要件 ①
バン		ツル目 クイナ科
<i>Gallinula chloropus</i> (Linnaeus)		環境省 なし
❖ 形 態	体長 32cm、全身はほぼ黒で、額と嘴の基部は赤く、嘴の先端と脚は黄色で、脇と下尾筒は白い。脚は長く尾は短い。	
❖ 分布の概要	ユーラシア・アフリカ・アジア・南北アメリカの温帯から熱帯にかけて広く分布する。日本では北日本で夏鳥、東日本や西日本では留鳥。	
❖ 生息状況	ヨシやガマなど背の高い水生草本が豊富な湿地に生息する。岩手県では、主に内陸部や三陸沿岸の平地の湖沼・河川・休耕田に生息するが数は多くない。近年、分布域が全国的に著しく減少している。	
❖ 脅 威	湿地環境の劣化や消失、湿地的な休耕田の減少。	
❖ 特記事項	2013 年 6 月に狩猟鳥の指定から外された。	
❖ 文 献	23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、38. 日本鳥学会（2012）	
		（高橋 雅雄）

留意		選定要件 ①
カイツブリ		カイツブリ目 カイツブリ科
<i>Tachybaptus ruficollis</i> (Pallas)		環境省 なし
❖ 形 態	体長 26cm、顔と首が赤褐色で、上面は黒褐色、下面は淡褐色。嘴と脚は黒く、水かきは弁足で各足指が幅広い。目は黄白色。	
❖ 分布の概要	ユーラシア中部・南部とアフリカに分布する。日本では全国で繁殖し、北日本のものは南下して越冬する。	
❖ 生息状況	主に淡水域の河川や湖沼に生息する。岩手県では、内陸部や三陸沿岸の平地で繁殖する。	
❖ 脅 威	オオクチバスなど外来大型淡水魚による雛の捕食被害、ブルーギルなどの外来大型淡水魚による淡水性水生生物の変化や減少、河川や湖沼の環境変化。	
❖ 文 献	23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、38. 日本鳥学会（2012）	
		（高橋 雅雄）

留意		選定要件 ①
カンムリカイツブリ		カイツブリ目 カイツブリ科
<i>Podiceps cristatus</i> (Linnaeus)		環境省 なし
❖ 形 態	全長 46～61cm。嘴はピンク色、特にくびが長く、目の上白くて、嘴の根元と目を結ぶ黒線が目立つ。飛翔時は、翼前縁と次列風切は白い。夏羽は黒い冠羽と橙赤色の頬の飾り羽が特徴。	
❖ 分布の概要	ユーラシア大陸中部・アフリカ・オーストラリア・ニュージーランドに分布する。	
❖ 生息状況	岩手県内では三陸海岸に冬鳥として飛来していたが、2016 年 6 月 4 日に雛連れの繁殖個体が御所湖で記録された。その後連続して御所湖で 10 ペアが繁殖している。岩洞湖でも繁殖が確認されている。繁殖地は 4～10 月で、越冬地は 10～4 月まで生息する。	
❖ 脅 威	水域の汚染、開発の脅威。繁殖期のカヌー、ボートの進入。	
❖ 文 献	54. 藤井忠志・四ッ家孝司（2011）	
		（四ッ家 孝司）

## ウミネコ

チドリ目 カモメ科

*Larus crassirostris* Vieillot

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 44～47cm。成鳥は翼や背は灰黒色で頭部と体下面は白い。尾は白く先端に黒い帯がある。足は黄色。幼鳥は全体に茶褐色。
- ❖ 分布の概要 ロシア・朝鮮半島・中国で繁殖。国内では北海道から九州まで繁殖地がある。北海道では激減し準絶滅危惧種に指定。県内では海岸の崖で繁殖し、年間を通して沿岸地域に生息する。
- ❖ 生息状況 県内では四季を通じ、海岸、河口、漁港や春に水田で見られる。繁殖地は、久慈、普代、田野畑、田老、宮古の姉ヶ崎、閉伊崎、三貫島、碁石海岸、椿島など。佐賀部と姉ヶ崎は数年前にほぼ消滅し宮古の浄土ヶ浜、閉伊崎などに移動した。佐賀部は2回目の消滅である。繁殖地は数年～50年間ほどの期間で移動を繰り返している。
- ❖ 脅威 海洋汚染、オオセグロカモメなどの天敵。
- ❖ 特記事項 椿島は「国の天然記念物」指定（1934）佐賀部は「県の天然記念物」指定（1959）
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）

(関川 實)

## オオセグロカモメ

チドリ目 カモメ科

*Larus schistisagus* Stejneger

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 全長 55～67cm。大型のカモメ。成鳥は背から翼は灰黒色で、頭部と下面、尾も白く、足に蹼がある。幼鳥は全身褐色。
- ❖ 分布の概要 北海道からロシア沿岸で繁殖し、冬季は南に渡る。北海道では、激減していることから準絶滅危惧種に指定。県内では、主に冬期に海岸、河口、漁港に渡来する。繁殖地は地域により増減が見られる。
- ❖ 生息状況 1972年三貫島で本州初の繁殖（抱卵）が確認された。その後は沿岸各地で繁殖地が見つかった。県内は少規模コロニーが多い。小袖海岸、野田、普代、田野畑、田老、重茂半島、船越半島、釜石、日出島、三貫島、椿島まで多数点在している。船越大島が最大の繁殖地。
- ❖ 脅威 海洋汚染、餌資源の魚類の減少。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）、36. 遠藤公男他（1987）

(関川 實)

## オオミズナギドリ

ミズナギドリ目 ミズナギドリ科

*Calonectris leucomelas* (Temminck)

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 48cm。大型のミズナギドリ類。上面は暗褐色で下面は白く、翼は細長く、足に蹼がある。
- ❖ 分布の概要 国内では北海道から沖縄、朝鮮半島、中国、ロシア南東部の島々で繁殖。冬季は赤道付近まで南下する。御蔵島では野生ネコの被害で激減。県内の三貫島、日出島、船越大島など 10 の島で繁殖する。沖では普通に見られる。県内では、温暖化で増加傾向。三貫島では 2021 年にシカの食痕、フンが確認された。11 月が巣立ち。
- ❖ 生息状況 県内では、三貫島が最大の繁殖地である。年々、渡来が早く、三貫島では 2 月 25 日が最も早く、1970 年代と比べ約ひと月早くなった。毎年 11 月に日出島で巣立ちした幼鳥が宮古市内の街灯に迷行し保護される。2023 年は 5 件の保護あり。
- ❖ 脅威 海の汚染、延縄漁、イワシ、イカなど餌資源の減少。
- ❖ 特記事項 三貫島は国の天然記念物指定（1935）
- ❖ 文献 15. 日本野鳥の会編（1973）、18. 日本野鳥の会宮古支部（2014-2023 年）

(関川 實)

## ササゴイ

ペリカン目 サギ科

*Butorides striata* (Linnaeus)

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 52cm、全身が青灰色で、頭と嘴は黒く、目と脚は黄色。喉から胸にかけて白い縦線がある。
- ❖ 分布の概要 アフリカ・南アジア・東南アジア・東アジア・オーストラリア・南アメリカに分布する。日本では夏鳥として本州以南に渡来し繁殖する。
- ❖ 生息状況 河川・湖沼・水田などの水辺に生息し、近隣の林地で単独または数つがいで繁殖する。岩手県では、主に内陸部や三陸沿岸の平地の河川・湖沼・水田に生息する。近年、分布域が全国的に著しく減少している。
- ❖ 脅威 水辺環境の劣化や消失、営巣環境の破壊。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、38. 日本鳥学会（2012）

(高橋 雅雄)

## アマサギ

ペリカン目 サギ科

*Bubulcus ibis* (Linnaeus)

環境省 なし

- ❖ 形態 体長 51cm、全身が白く、嘴は黄色で、脚は黒い。夏羽は頭・首・胸・背が橙黄色。
- ❖ 分布の概要 全世界の暖温帯・亜熱帯・熱帯に分布する。日本では夏は全国に生息し、主に西日本で越冬する。2010 年代以降に全国的に減少している。
- ❖ 生息状況 河川・湖沼・水田・畑地・牧草地などの草原環境に生息する。岩手県内では内陸部や三陸沿岸の水田・畑地で少数が観察される。
- ❖ 脅威 不明。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、38. 日本鳥学会（2012）

(高橋 雅雄)

## 留意

## 選定要件 ①

## コサギ

ペリカン目 サギ科

*Egretta garzetta* (Linnaeus)

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 61cm、全身が白く、頭頂に白く細長い飾り羽が生え、嘴と脚は黒く、足指は黄色。
- ❖ 分布の概要 ユーラシア中部・南部・アフリカ・オーストラリアに分布する。日本では夏鳥として主に本州以南に渡来し繁殖する。北日本では数が少ない。
- ❖ 生息状況 河川・湖沼・水田などの水辺に生息し、近隣の林地で集団で繁殖する。岩手県では、主に内陸部や三陸沿岸の平地の河川・湖沼・水田に少数が生息する。近年、分布域が全国的に著しく減少している。
- ❖ 脅威 水辺環境の劣化や消失、集団営巣地の人為的破壊。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、38. 日本鳥学会（2012）

(高橋 雅雄)

## 留意

## 選定要件 ②

## ノスリ

タカ目 タカ科

*Buteo japonicus* Temminck & Schlegel

環境省 なし

- ❖ 形態 雄 全長 52cm、翼開長 122cm、雌 全長 56.5cm、翼開長 137cm。上面が暗褐色、下面が淡バフ色で、脇と翼下面の翼角部に暗褐色のパッチがある。
- ❖ 分布の概要 ユーラシア大陸とイギリス、サハリン、千島列島に分布する。日本では北海道から九州まで広く繁殖している。
- ❖ 生息状況 岩手県では北上高地と奥羽山脈の平野部から低山帯にかけて広く分布し、ほぼ全域的に確認されている。周辺に農耕地、牧草地、果樹園などの開けた場所がある林が営巣地として好まれる。冬期には、山地や北方から温暖な地方へ漂行する。農耕地、造林地のモグラ・ネズミ類の天敵として重要。他の猛禽類がノスリの巣をしばしば使って繁殖する。
- ❖ 脅威 アカマツ林、カラマツ林などの営巣林の繁殖期の伐採や再エネ開発。特に風力発電機への衝突死が頻発している。

(由井 正敏)

## 留意

## 選定要件 ①

## コミミズク

フクロウ目 フクロウ科

*Asio flammeus* (Pontoppidan)

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 37～39cm。翼開長 95～110cm。全身淡褐色、または黄褐色。羽角は短く、ほとんど見えないこともある。虹彩は黄色。飛翔中、翼上面初列風切基部の橙褐色が目立つ。
- ❖ 分布の概要 ヨーロッパ北部、シベリア、北アメリカ北部、南アメリカ南部、ハワイ諸島で繁殖し、ヨーロッパ、インドから中国、北アメリカ中西部で越冬する。日本には冬鳥として日本全国に飛来する。岩手県内では 1999 年 1 月の暖冬の年に、盛岡市永井に 20 羽の個体が越冬した。
- ❖ 生息状況 冬鳥として、南下途中の個体が観察される。
- ❖ 脅威 広大な農耕地の減少や周辺の宅地開発。
- ❖ 文献 54. 藤井忠志・四ッ家孝司（2011）

(四ッ家 孝司)

## フクロウ

フクロウ目 フクロウ科

*Strix uralensis* Pallas

環境省 なし

- ❖ 形態 灰白色の体に黒い縦斑。羽角のない灰色の丸い顔に黒い目。繁殖期に入る晩冬～早春の頃、ゴロスケホッホと聞きなせる独特の太い声で鳴く。晩春～初夏にかけては巣立ち後の幼鳥もやや甲高い声で鳴く。
- ❖ 分布の概要 旧北区に広く分布。平地～丘陵地の大径木のある里山や社寺林等に生息する留鳥。県内では最も身近なフクロウ類で、なかでも県央～県南部にかけての北上川流域の低地帯で比較的多いが、近年では営巣地が消失した例もみられる。
- ❖ 生息状況 夜行性で主に農地周辺のネズミ類やモグラ等の小動物、ムクドリ等の小鳥類を捕食する。里山や社寺林、屋敷林の大径木の樹洞で営巣するが、大径木の減少に伴い、巣箱の利用例もある。
- ❖ 脅威 樹洞のある大径木の減少。土地改変や環境汚染に伴う餌動物の生息環境の悪化。カラス類の増加と迫害など。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾（2021）

（佐賀 耕太郎）

## カワセミ

ブッポウソウ目 カワセミ科

*Alcedo atthis* (Linnaeus)

環境省 なし

- ❖ 形態 頭部から背部、尾羽まで光沢のある青緑色、腹部は赤褐色、嘴は頭部とほぼ同長で黒い。
- ❖ 分布の概要 ユーラシア中緯度以南に広く分布し本州以南では留鳥、北海道のものは冬季本州以南に漂行する。
- ❖ 生息状況 採餌に適した小魚の多い浅瀬。営巣場所となる水辺の土手や崖、猛禽類などから避難するためのヨシ原、ヤナギ類、オニグルミ等の適度の河畔林がみられる環境に多く生息する。
- ❖ 特記事項 日本の里山や身近な水辺環境のポピュラー種であり1年を通して姿が見られるが、近年は河川改修工事や河川敷の整備事業などの進展により生息適地が減少する傾向にある。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）、23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、34. 植田睦之ほか（2023）、68. 日本野鳥の会もりおか（2019）、73. 日本野鳥の会北上支部（2022）

（嶋田 和明）

## 留意

## 選定要件 ①

## ヤマセミ

ブッポウソウ目 カワセミ科

*Megaceryle lugubris* (Temminck)

環境省 なし

- ❖ 形態 よく発達した冠羽と白、黒の鹿の子模様のハト大のカワセミ類。キャラッ、キャラッと鳴く。
- ❖ 分布の概要 ヒマラヤ、タイ、中国南部等に分布。九州以北の溪流や河川、湖沼、ダム湖などに棲む留鳥。
- ❖ 生息状況 以前は県内各地の溪流などで繁殖が見られたが、2000 年以降は生息数が著しく減少している。これは各地で河川改修工事が進められる結果として繁殖適地が消失したためと考えられる。
- ❖ 脅威 イワナなど溪流魚の激減、溪畔林の過伐採、営巣場所となる崖地の環境改変。特に河川の護岸工事や河川敷の整備事業の進展などに伴う繁殖適地・採餌適地の減少。
- ❖ 文献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）、23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、34. 植田睦之ほか（2023）、68. 日本野鳥の会もりおか（2019）、74. 日本野鳥の会北上支部（2011）、75. 日本野鳥の会北上支部（2022）

(嶋田 和明)

## 留意

## 選定要件 ①

## オオアカゲラ

キツツキ目 キツツキ科

*Dendrocopos leucotos* (Bechstein)

環境省 なし

- ❖ 形態 体長 28cm ほどでアカゲラに似るが、アカゲラより大型で腹部や脇は白地に黒い縦斑があり、背中には逆八の字の白斑がない。枯れ木の中にいる甲虫の幼虫や蟻などの他、ホオノキなどの木の実も食べている。
- ❖ 分布の概要 北海道から奄美大島にかけて留鳥として生息するが数は少ない。八幡平、久慈、岩泉、盛岡、北上、西和賀などでの記録があるが、沿岸、県南部の記録は少ないようだ。
- ❖ 生息状況 主に奥山のブナ林地帯に生息しているが、稀に里山の雑木林でも確認されている。全国的には増加傾向にあるが、岩手県内での確かな繁殖記録は少なく生態は不明部分が多い。
- ❖ 脅威 自然林の開発、消失の他、繁殖期のヘビ類やカラスが天敵。

(瀬川 強)

## 留意

## 選定要件 ①

## チョウゲンボウ

ハヤブサ目 ハヤブサ科

*Falco tinnunculus* Linnaeus

環境省 なし

- ❖ 形態 全長は雄 33cm、雌 39cm で、翼は短く尾は長い。背は赤褐色で、雄の頭部と尾羽は青灰色、雌はどちらも赤褐色。喉～腹の下面は淡褐色で黒褐色の斑がある。
- ❖ 分布の概要 ユーラシアとアフリカに広く分布する。日本では北海道と本州で繁殖し、他の地域には冬鳥として渡来する。
- ❖ 生息状況 河川敷や農耕地などの草原環境に生息し、近隣の崖や人工物で繁殖し、数つがいが集まった小規模なコロニーを形成する時もある。岩手県では内陸部や三陸沿岸の河川敷や農耕地で見られ、少数が繁殖している。
- ❖ 脅威 営巣環境の減少。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、38. 日本鳥学会（2012）

(高橋 雅雄)

## 留意

## 選定要件 ①

## サンコウチョウ

スズメ目 カササギヒタキ科

*Terpsiphone atrocaudata* (Eyton)

環境省 なし

- ❖ 形 態 全長は雄が約 45cm（繁殖期）で、尾羽は中央 1 対が長く 30cm になる。雌は 17.5cm。アイリングが目立つ。
- ❖ 分布の概要 日本には夏鳥として渡来し本州以南で繁殖する。針広混交林の薄暗い林を好む。
- ❖ 生息状況 林内に飛翔空間がある広くて薄暗い林に住み元々多くはないが、全国調査ではこの 10 年で 2 倍の目撃数となっている。
- ❖ 脅 威 カラス類などの捕食や生息に適合する林の減少。野鳥写真撮影による営巣放棄。
- ❖ 文 献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）、36. 遠藤公男他（1987）

（安藤 泰彦）

## 留意

## 選定要件 ①

## コサメビタキ

スズメ目 ヒタキ科

*Muscicapa dauurica* Pallas

環境省 なし

- ❖ 形 態 全長 13cm。上面は褐色がかかった灰色で、白いアイリングがある。サメビタキ属 3 種の中では最小。
- ❖ 分布の概要 日本では九州以北に夏鳥として渡来し、平地から山地帯の落葉広葉樹の多い林に生息する。群れは形成せず、単独もしくはペアで生活する。県内でも観察の記録は多い。
- ❖ 生息状況 壮齢～老齢林を好み、平地、丘陵地などの落葉広葉樹林でも見るが、都市公園での繁殖は減少傾向にある。盛岡市内でも繁殖が確認されている。さえざりは「ツイーチリリチョビリリ」等複雑である。
- ❖ 脅 威 過度の針葉樹林化による林相の単純化や過密林化。カラス類による加害。
- ❖ 文 献 9. 岩手県環境保健部自然保護課編（1978）、36. 遠藤公男他（1987）

（安藤 泰彦）

## 留意

## 選定要件 ②

## カヤクグリ

スズメ目 イワヒバリ科

*Prunella rubida* (Temminck & Schlegel)

環境省 なし

- ❖ 形 態 体長 14cm で、全身灰褐色。チリリリリッと鳴く。
- ❖ 分布の概要 八幡平から栗駒山までの奥羽山脈沿い及び早池峰山に生息し、冬期は希に岩手県内暖地で見られる。春の渡りの時期には山地の溪流に沿った地域などで移動中の群れがしばしば見られる（2019 年 4 月 20 日など、雫石町鶯宿ダム付近）。
- ❖ 生息状況 もともと生息数は少ないが、ハイマツ帯では満遍なく生息する。ただし早池峰本峰の各登山道沿いでの減少が目立つ。
- ❖ 脅 威 登山路、山岳道路の整備と登山者のハイマツ林への侵入や汚染による生息環境の悪化。
- ❖ 特記事項 日本固有種であり、高山帯ハイマツ林の指標種として重要。
- ❖ 文 献 23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、68. 日本野鳥の会もりおか（2019）、76. 東北地域環境計画研究会（2009）、77. 日本野鳥の会北上支部（2022）

（嶋田 和明）

## イスカ

スズメ目 アトリ科

*Loxia curvirostra* Linnaeus

環境省 なし

- ❖ 形態 体長 17cm で、雄は翼と尾羽以外は濃い赤色、雌や若鳥は全身汚緑色。くちばしが交叉して曲がっているのが特徴。キョッキョッまたチョッチョッと鳴きながら群をなして高空を飛翔する。
- ❖ 分布の概要 世界的に中北部緯度地帯の針葉樹林に分布する。日本では本州中北部、北海道で少数繁殖するが、越冬のため大陸から渡って来るものが多い。岩手県にはアカマツ林が多いため繁殖確認の事例が比較的多い。
- ❖ 生息状況 滝沢市・雫石町周辺や北上高地、奥羽山脈などで少数が繁殖し、冬季には盛岡市の岩山や米内地区の里山のアカマツ林など県内各地でしばしば群れが見られる。
- ❖ 脅威 平地のアカマツ壮齢林や並木の減少と松枯れ。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)、34. 植田睦之ほか (2023)、68. 日本野鳥の会もりおか (2019)、78. 日本野鳥の会北上支部 (2011)、79. 日本野鳥の会北上支部 (2022)  
(嶋田 和明)

## ノジコ

スズメ目 ホオジロ科

*Emberiza sulphurata* Temminck & Schlegel

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 体長 14cm、背中は灰褐色であるが、頭部から腹部は明るい黄灰色。雄、雌とも目の周りの白いリング斑が目立つ。囀りはチョンチョンチーチュチュチューチーで、鈴の鳴るような澄んだ声。
- ❖ 分布の概要 北上高地全域から奥羽山脈の明るい森林地帯に生息する。日本特産のホオジロ科の鳥で、本州中北部で繁殖し、多くは東南アジアで越冬する。
- ❖ 生息状況 岩手県内各地で見られるが、アオジとは異なり生息地域はかなり局所的である。特に北上川沿いの里山から山地への駆け上がりの傾斜地に多い。また秋の渡りの時期には雫石川の河川敷のヨシ原などでのバンディング調査においてしばしば確認される。
- ❖ 脅威 森林の手入れ不足。東南アジアの越冬地の開発。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾 (2021)、68. 日本野鳥の会もりおか (2019)、69. 東北地域環境計画研究会 (2000)、80. 日本野鳥の会北上支部 (2011)、81. 日本野鳥の会北上支部 (2022)  
(嶋田 和明)



## クロジ

スズメ目 ホオジロ科

*Emberiza variabilis* Temminck

環境省 なし

- ❖ 形態 体長 17cm でホオジロより太めである。雄は全身暗青灰色であるが、雌は全身汚褐色。雄雌ともに外側尾羽が白くないのが特徴。さえずりはホイーチイチイで、澄んだ大きな声である。
- ❖ 分布の概要 北海道及び本州中北部で繁殖し、日本の暖地で越冬する。国外ではカムチャッカ南部、サハリン、千島に分布する。県内亜高山帯のブナやオオシラビソ等の高木森林に生息する。高標高の笹が密生したカラマツ人工林でも繁殖する。
- ❖ 生息状況 主に奥羽山脈、北上高地のブナ林やオオシラビソ林等でチシマザサの密生する林で繁殖し、冬季は低地の山林で越冬する。春の渡りの時期には市街地周辺の山林などで観察されることもあり、秋季には盛岡市の雫石川河川敷のヨシ原でのバンディング調査においてしばしば捕獲される。
- ❖ 脅威 ブナ林の開発やタケノコ取り。越冬地常緑広葉樹林の減少。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、34. 植田睦之ほか（2023）、68. 日本野鳥の会もりおか（2019）、82. 日本野鳥の会北上支部（2011）、83. 日本野鳥の会北上支部（2022）  
(嶋田 和明)

## オオジュリン

スズメ目 ホオジロ科

*Emberiza schoeniclus* (Linnaeus)

環境省 なし

- ❖ 形態 全長 16cm、雄の夏羽では頭部は黒く、首・胸・腹は白く、背や翼は褐色で黒褐色の縦斑があり、尾は濃褐色で両脇は白い。雄の冬羽や雌では、頭部は濃褐色で淡い眉斑があり、首・胸・腹は薄褐色。
- ❖ 分布の概要 ヨーロッパ西部から東アジアにかけてのユーラシア北部・中部で繁殖し、ユーラシア中部・南部で越冬する。日本では北海道と東北地方北部で繁殖し、東日本以南で越冬する。
- ❖ 生息状況 河川敷・湖岸・湿原・耕作放棄地などのヨシ原や湿性草原に生息する。岩手県では春秋の渡り時期に通過する。
- ❖ 脅威 湿性草原の減少と劣化。
- ❖ 文献 23. 植田睦之・植村慎吾（2021）、38. 日本鳥学会（2012）  
(高橋 雅雄)